

環境レポート

Sustainability Report
2012



SARAYA

水といきものの未来へ。酵母がつくった新しい洗剤ができました。

BORNEO CONSERVATION TRUST
売上げ1%による BCT 支援

Green Palm SUSTAINABILITY
RSPO認証パーム核油 (台帳方式)

SOFORO
BIO-SURFACTANT
through fermentation

Happy Elephant

RSPO CERTIFIED SUSTAINABLE PALM OIL
RSPO認証パーム油 (分離方式)

水といきものに負担をかけない、天然酵母が生み出す洗剤成分 SOFORO(ソホロピッド) が、しっかりと汚れを包んで落とし、確かな洗浄力を発揮します。

天然洗剤成分の SOFORO は、植物油を原料にして、酵母が発酵することにより、生み出され、すぐれた洗浄力で安全性も高く、使用後の廃水はすばやく地球に戻ります。詳細は「サラヤの商品開発」P25 をご参照ください。



はじめに

2012年1月20日の弊社大阪工場よりの大和川中性洗剤漏洩事故で、地域住民の方々や漁業関係者、大和川保全に取り組んでいらっしゃる方々はもとより、弊社製品をお使いいただいている企業のお客様や消費者の皆様にも、多大なご迷惑をおかけ致し、心よりお詫び申し上げます。

弊社の環境理念に反する事態であり、一時的とはいえ大和川に多大な環境負荷を与えてしまいましたことを深く、深く反省しております。今後二度とこのような事態を起こさないよう徹底した改善を行いました。これにつきましてのご報告は、P31～33に記載しております。

編集方針

構成

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」[GRI サスティナビリティ リポートガイドライン Version3.0] を参考に内容を構成しております。

対象期間

データの集計期間は、2011年1月から12月としていますが、一部に当社の決算期である2010年11月～2011年10月の集計データも含まれています。報告の活動内容は2011年を中心としておりますが、一部に2011年以前や2012年の内容、写真が含まれています。

集計対象事業所

サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社、スマイル産業株式会社の全事業所と Saraya MFG.(Thailand)Co., Ltd. を対象としております。

発行履歴

2002年7月、発行開始より年1回発行。次号発行は2013年夏を予定しております。2012年10月より「Saraya Sustainability Report」(英語版)も発行いたします。

インターネットでの公開

サラヤホームページ上にも環境レポートのPDFデータを公開しております。
<http://www.saraya.com/env/>
<http://worldwide.saraya.com/sustainable/>

もくじ

1. トップコミットメント	2
2. グローバルコミットメント	6
バイオダイバシティイングッド・カンパニー	7
Rio+20 国連持続可能な開発会議に参加して	8
3. 手指衛生プロモーション	9
世界の患者安全への挑戦 — 医療関連感染予防の推進	9
100万人の手洗いプロジェクト	10
世界の衛生に貢献 — ウガンダから BOP ビジネスを開始	12
4. サプライチェーン	14
野生生物保護へのサラヤの協力	15
原料調達における CSR	16
グリーン調達	18
5. 環境マネジメントシステム	20
環境目標と実績	21
2011年実績	22
2011年のマテリアルフローと温室効果ガス排出量	22
6. サラヤの商品開発	24
コース・ブランド	26
カーボン・バランス	27
7. グリーン・ビジネス関連会社	28
8. 環境コミュニケーション	30
9. 中性洗剤漏洩事故について	31
10. 社会貢献 — 非営利団体への支援	34
11. お客様とサラヤ	36
12. 従業員とサラヤ	38
人事	38
福利厚生	40
13. 環境管理責任者より	41
14. サイトレポート	42
サラヤグループの会社概要	44

1. トップコミットメント

震災から1年、サラヤは時代が求める変化に適応して行きます。

大きな変化に対し、^{イノベーション}変革に挑戦を!

2012年1月20日に、当社の大阪工場で、洗剤漏洩事故が起きました。詳細ならびに顛末は本誌p.31に、ご報告させていただきます。大変申し訳ございませんでした。ご迷惑をおかけいたしました関係各位に、心からお詫び申し上げますとともに、今後このような事故が発生しないよう、今一層の精進をいたします。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

さて、東日本大震災から1年がたちました。日本では、大震災を経て、エネルギーやコミュニティの新しいありかたを目指し、社会が変革を模索しています。また、2008年のリーマンショック、昨今のヨーロッパの金融危機は、グローバルな景気後退をもたらせ、いまや世界同時不況から、経済恐慌のリスクまで指摘されています。日本のみならず、グローバル経済においても、新興国の台頭、資源の有限性、地球温暖化、金融危機、貧富の拡大、若年雇用の不足など、環境の急激な変化や市場経済の有り様を省みて、新しい経済の形が模索されています。企業はこうした変化に対応できるよう、また理論家ではなく実践者として、新しい商品やサービスの提供ができるよう、変革を続けなければなりません。まさにダーウィンの言う、「最も強いものが生き残るのではない、もっとも変化に適応したものが生き残るのだ!」を実践することが求められています。

変化の方向性はどのように表現できるのでしょうか。市場経済はここ100年間で、われわれに多くの恩恵をもたらせてきました。しかし現在は、市場を席巻するため規模拡大が求められ、キャッシュフロー至上主義とレバレッジの活用により、リスクと混雑が生まれ、効率向上を求めて競争が激化し、効率向上を目指すほどに雇用が減少する、モラルのない、皮肉で破壊的な経済体制が生まれてきています。今や、このような旧体制の市場経済から新しい経済方式へと企業の脱皮が必要です。それは、資源の活用の向上、環境負荷の削

減、共生と共有、生物多様性の保全、コミュニティや絆の再生とビジネスの役割、国民総幸福向上社会（Gross National Happiness, GNH）実現、仕事のやりがい向上、など様々な言葉で語ることができます。これを確固とした形にするには、変革への挑戦と、それを成し遂げる強い意志、実行力が必要です。サラヤも60周年を機に、新しい企業への脱皮を目指し、精一杯変革を遂げたいと思います。どうかよろしくお願いたします。

1. RSPO認証油の全商品切り替えとBCT

当社は2006年のボルネオ保全トラスト（マレーシアサバ州）設立、2008年のボルネオ保全トラストジャパン設立に積極的に関わり、またその設立以来、両団体を支援しております。以来両団体を通じて、ボルネオの生物多様性の保全や、緑の回廊の実現を目指しております。

一方、2005年よりRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に所属し、持続可能なパーム油の認証制度の確立や普及に貢献してまいりました。いよいよ2010年には、RSPOによる持続可能なパーム油の認証制度がはじまりました。

この運用を皮切りに、サラヤでは2010年10月に日本ではじめて「ヤシノミ洗剤洗たくパウダーネオ（現ハッピーエレファント写真）」で、セグリゲーション（分離方式）の持続可能なパーム油のサプライチェーンにおける認証を受けました。その後、2012年4月よりパーム油関連の全商品にセグリゲーション、ブック&クレーム（グリーンパーム認証）の両認証油を用いて、RSPO認証油へ原料を切り替えています。

またボルネオの生物多様性の保全については、ヤシノミ洗剤の売上げ1%の^{ふるぎん}で、両団体の活動支援や、緑の回廊の土地の買い足し、ゾウや野生生物の救援、などを続けております。2012年には現地に、ボルネオゾウのレスキューセンターの建設予定があり、これにも事業協力をいたします。(p.26、p.35参照)



RSPO SCCS (Supply Chain Certificate System) を取得



ハッピー エレファント シリーズ

2. 感動の新しい新洗剤、SOFOROの生産と販売

RSPO 認証パーム油を、酵母によって発酵させることにより、画期的なバイオの洗剤、並びに洗浄剤原料 SOFORO（ソホロリピッド）ができました。このSOFOROは、天然界面活性剤でありながら、洗浄力が大変強く、自動食器洗浄機、洗濯用洗剤、環境用洗剤、また高純度品では化粧品原料として、これからの活用が大いに期待されます。当社では、ご家庭用商品として、ハッピーエレファントシリーズや産業用に環境用洗浄剤などの開発が進んでいます。

またココパームシリーズでは、高純度のSOFOROを用いた洗顔用ジェルも上市の予定です。またラクトフェリンラボシリーズでは、免疫力賦活効果が高く、お肌の修復効果のある母乳成分ラクトフェリンと、このSOFOROを組み合わせたお肌用乳液やクリームとしても活用される予定です。今後SOFOROの生産量を増やし、コストダウンにも取り組むため、原料としての販売も検討してまいります。

3. ウガンダのBOPビジネス

ユニセフと協同で、3年計画の「ウガンダ100万人の手洗いプロジェクト」を、2010年から推進しており、2012年は3年目にあたります。その実績を基盤にして、ウガンダと周辺アフリカ諸国の衛生向上のため、「手洗い事業」を



2011年版にレスキューセンターの図面を掲載しましたが、SWD(サバ州野生生物局)の要望など、現地のさまざまな事情を総合的に考え、BCTジャパンが新しく図面を引き直しました。2013年開園の予定です。



ココパームとラクトフェリンラボシリーズの化粧品関連商品



持続可能なビジネスとして確立しようと、サラヤ・イースト・アフリカ株式会社を2011年5月に設立いたしました。この組織を基盤にして、国際協力事業団のご支援をいただき、病院で「アルコールの手指消毒の実証実験」を実施いたします。

また現地の砂糖メーカー「カキラシュガー」と協同して、廃糖蜜（精糖後の廃液）からアルコールを製造し、手指消毒や皮膚消毒に用いるアルコール製品を製造するフィージビリティスタディ（事業化採算性分析）をはじめております。日本の東アフリカでのBOPビジネスの魁として、当事業が成功いたしますよう、ご支援とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願いたします。



ウガンダの小学校で

4.WHOと院内感染の予防、手指消毒用品の開発

WHO(世界保健機構)では2005年から、“Clean Care is Safer Care”のプログラムを立ち上げ、ことに医療における手指消毒のプロモーション“Save Lives, Clean Your Hands”の運動を世界的に展開しています。サラヤのこのWHOプログラムに参加し、“WHO Private Organizations for Patient Safety Platform”の協賛メンバーとして、その活動を支援しています。

今世界中で、HAI (Healthcare Associated Infection) (ヘルスケア分野に関連した院内感染・施設内感染などの感染)が問題になっています。このガイドラインに則り、サラヤでは、MRSA、VRE、緑膿菌、セラチア菌など多様な病原菌から、感染を予防するため、WHOの推奨する“5 Moments”、「患者の介護における手指消毒の5つのタイミング」における、手指消毒の励行プログラムや、そのための用具や機材を開発提供しています。2011年7月には、ジュネーブで開催されたICPIC(予防と感染制御のための国際会議)に、唯一日本企業として参加、展示も行いました。(右写真)今後もWHOと協働しながら、日本から世界に、革新的な手指消毒を発信してまいります。



カキラシュガーの工場

5.日本国内における衛生・環境関連ビジネス

当社は、創業以来、医療・介護分野での感染予防、食品衛生、公衆衛生、一般消費者の分野で、お仕事をさせていただいております。(p.44 会社概要参考)。この分野でも、本年も種々の新商品を出させていただきました。また、セミナーなどにより、商品の使用方法や感染リスクの管理に、正しい知識の普及を促進しております。

2011年に食品衛生分野では、病原性大腸菌の感染で、「ユッケ」を食べた方々が、入院や死亡するという事故がおり、「ユッケ」や「生レバー」の提供が禁止される事態にいたっています。食品の製造や流通での食品衛生の環境の改善がはかられ、日本の食文化が維持できるようになりたいものです。

海外からのヒトやモノの流通が増えるにつれ、今まで遭遇しなかった新しいウイルスや細菌の感染が見られます。感染症や食中毒の予防にむけて、ITを活用した効率高いサービス



ICPIC:International Conference on Prevention & Infection Control (2011 6/29~7/2、ジュネーブで開催)



第35回フードサニテーションパートナー会

や情報の提供により、ますます多様化するお客様のニーズに、積極的にお応えしてまいります。

6.海外ビジネス

2012年度には、ベトナム、インドに販売のための法人を設立いたしました。2012年現在、世界3カ国で生産、15カ国で販売を開始しております。これらグローバルなネットワークを活かし、「最適購買、最適生産、最適販売」を目指し、お客様に競争力のある商品とサービスをお届けさせていただきます。

2013年には中国 桂林で羅漢果エキス抽出事業をスタートし、現地で生産する予定で、2012年度はその準備を行います。手指衛生についてグローバル展開については、p.9~13ならびに<http://worldwide.saraya.com/>をご参照ください。

7.よりよい環境づくりに向け関連企業との共働

当社の関連企業では、省エネや省資源、ゴミのリサイクルや活用、環境負荷の削減、水資源の循環や活用など、様々なビジネスに取り組んでおります。これらの関連企業はサラヤ本体とコラボレーションを深め、お客様に様々な提案を行い、環境改善に貢献いたします。

8.関連会社や非営利団体とのコラボレーション

また、WHO、ユニセフ、CBD(生物多様性条約会議)などの国連機関はもとより、公益社団法人日本WHO協会、NPO法人ZERIジャパン、同エコデザインネットワーク、同ボルネオ保全トラストジャパンなどの各非営利団体とも協力関係を深め、日本や世界の「衛生・環境・健康の向上への貢献」に取り組んでまいります。

9.ポスト60周年の方向

2012年にサラヤ創立60周年を迎え、東京・大阪のみならず、福岡、名古屋、仙台、札幌と、各地で記念講演やお客様との交流会を開催させていただき、意見を交換させていただきました。創立60周年を経て、サプライチェーンを見直し、商品とサービスの提供の新しい形をめざして変革を実現し、「世界の衛生、環境や健康の向上に貢献できる企業」として、大いに変革にチャレンジしてまいります。

今後とも、ご指導、ご鞭撻いただきますよう、何卒よろしくお願申し上げます。



中国桂林特産の羅漢果の果実、0カロリーで砂糖の数倍の甘味成分羅漢果配糖体(トリテルペングリコシド)が含まれる。



公演中のグンター・パウリ氏(ZERIジャパン主催シンポジウム「ブルーエコノミーに変えよう」)詳細はp.34をご参照ください。



免疫学の世界的権威、岸本忠三教授(大阪大学免疫学フロンティア研究センター、元大阪大学総長)にご講演いただいた。(60周年記念セレモニー大阪会場 リーガロイヤルホテル 2012 4/11)



堺屋太一氏よりのご挨拶(60周年記念セレモニー東京会場 ホテルオークラ 2012 5/17) 同セレモニーの講演会は p.30をご参照ください。

サラヤ株式会社
代表取締役社長

更家悠介

2. グローバル コミットメント

持続可能性、企業の社会的責任についての世界規模でのイニシアティブを国連が主導しています。ビジネスの分野では、国連グローバル・コンパクトやCBD(国連生物多様性条約会議)傘下のBiodiversity in Good Company(ビジネスと生物多様性イニシアティブ)などがあり、サラヤはこの2つの宣言に署名しました。また、WWF(世界自然保護基金)が提唱した持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)にも積極的な参加を果たしています。

私たちのコミットメント—公約—

人類の節度のない経済活動により、数多くの「野生生物たち」は、知らぬ間にこの地球上から消え去っています。近年の種の消滅スピードは地球の数十億年の歴史の中でも、かつて起こったことのない早さであるといわれており、生物多様性の維持・保全についても、私たちはかつてない格段の注意を払うべき時代を迎えています。

サラヤは、手洗いを中心に感染予防や食品衛生のための商品を提供しています。当社商品の石けん液や洗剤の主要原料はボルネオ島などで栽培されるアブラヤシから得られます。持続可能な原料調達と熱帯雨林の保護・再生、野生生物の保護のための支援を続けています。私たちは右の5つの活動に取り組めます。

Biodiversity in Good Company



2008年 Biodiversity in Good Company は、国連生物多様性条約第9回締約国会議ボン開催時に、ドイツ連邦環境省が経済の基盤とすべく「ビジネスと生物多様性(B&B)イニシアティブ」として、発足させました。

サラヤは、同会議の閣僚級会合(ハイレベルセグメント)において、最初のメンバーとして下表のリーダーシップ宣言に署名し、以来積極的な活動をしています。1. 生物多様性の保全、2. 生物多様性の構成要素の持続可能な利用、3. 遺伝資源から生じる利益の公正・衡平な配分、をその目的としています。

B&Bイニシアティブ リーダーシップ宣言の実施状況

リーダーシップ宣言	取り組み状況
1. 企業活動が生物多様性に与える影響について分析を行う	温室効果ガス排出量、化学物質放出量を把握。サプライチェーン上流の生物多様性に与える影響の研究調査を支援。
2. 企業の環境管理システムに生物多様性の保全を組み込み、生物多様性指標を作成する	2004年よりEMS(環境マネジメントシステム)「環境方針」に5番目の項目として生物多様性の保全を追加。2010年より環境目標を定め、活動。生物多様性指標は作成のため準備開始。
3. 生物多様性部門のすべての活動の指揮を執り、役員会に報告を行う担当者を企業内で指名する	担当者を指名。「百聞は一見にしかず」、役員を原料供給地ボルネオ サバ州に派遣し、現地で生物多様性への影響についての研修(2回)を実施。参加役員は、サラヤ側 11/13名、東京サラヤ側 6/6名、スマイル産業側 1/2名。
4. 2~3年毎にモニターし、調整できるような現実的かつ測定可能な目標を設定する	RSPO 認証パーム油の導入及びパーム核油についてはグリーンパーム認証マーク表示などへの取り組み。
5. 年次報告書、環境報告書、CSR 報告書にて、生物多様性部門におけるすべての活動と成果を公表する	当環境レポート及びWEB サイト、PDF で公表。2012年より英語版を同様に公開。毎年秋更新予定。
6. 生物多様性に関する目標を納入業者(supplier)に通知し、納入業者の活動を企業の目標に合うように統合してゆく	RSPOで「緑の回廊計画」を提案。納入業者に要請して、RSPOに2社(2010年末まで)が加盟。主要納入業者の現地研修を実施した。
7. 対話を深め、生物多様性部門の管理システムを引き続き改善してゆくために、科学機関やNGOとの協力を検討する	関連の国際会議や学会に参加、シンポジウム主催。ボルネオ保全トラストをはじめとする環境関係のNPOを支援。ボルネオ サバ州での政府機関や現地NPOの野生生物保護活動に参加・協力を検討する。

サラヤのコミットメント

- より低い環境負荷の商品の開発・販売・普及に努めます。また、その低環境負荷には当社独自の厳しい基準を設けて実施します。
- 環境や生物多様性の保全に配慮した原料使用へ向けて努力します。具体的にはRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)への積極的な参画とRSPO認証油や同パーム核油の導入を推進します。
- アブラヤシ・プランテーションと熱帯雨林の生物多様性が共存できるようにNPO、NGO、現地政府機関などの活動を支援します。
- ステークホルダーとの環境コミュニケーションを推進します。持続可能な産業衛生・食品衛生・感染予防のご提案、及び持続可能なライフスタイルの生活者へのご提案を積極的に進めていきます。
- その他、ユニセフのウガンダでの活動支援の他、NGO、NPO、国内・国際機関への生物多様性保全・環境保全・衛生の推進に関わる協力と支援を積極的に進めます。



Copyrights: GIZ
2008年ボン開催の生物多様性条約第9回締約国会議閣僚級会合中に同会場にて記者会見が行われた。左より更家悠介と当時のドイツ環境副大臣 Matthias Machnig 氏。

バイオダイバシティ イン グッド・カンパニー リーダーシップ宣言へのサラヤの取り組み



生物多様性と生物種及び生態系の危機的な減少の結果、世界中で自然が悲鳴を上げています。それは、地球規模で人類の生活そのものがすでに危機に瀕しているということです。解決を急がなくてはならない重要な問題のひとつは、生物多様性の利用と保全の両方を理想的に結びつけることです。

国連は、1992年のリオデジャネイロでの地球サミットで、この窮地を見据えて、国連生物多様性条約会議(CBD)を開設しました。

第9回国連生物多様性条約会議(COP9)は、2008年5月にドイツで開催され、「Biodiversity in Good Company」イニシアティブは議長国のドイツの元に、国際的なイニシアティブとして設立されました。このイニシアティブが目指すのは、CBDの目的を遂行するために民間からの確約を取ることです。

企業とは生態系に依存しているものです。企業が環境負荷を与えているだけではなく、企業活動そのものが、生物多様性や生態系に依存しているのです。健全な生態系は、企業に水、木材、繊維、食料などを供給し、その上、間接的には洪水や土壌の流出を防いでいます。

多国籍、多業種の大小様々な40社が、このイニシアティブを支持し、リーダーシップ宣言に署名し、管理システムに生物多様性への配慮を組み込み、生物多様性指標やモニタリング・システムを構築し、サプライヤーとこの生物多様性の目的を共有することを推進することを誓約しました。

サラヤは2008年に設立メンバーになり、以来数年間活動してきました。サラヤは、例えば日本国内の事務局を務めただけではなく、国際的なレベルで活動しています。更家社長は2008年ボンに参加、ドイツ環境副大臣とCOP9の国際記者会見に参加し発表。またニュールンベルグのSusCon会議(※)や名古屋のCOP10のサイド・イベントでも発表しています。

サラヤは、特に主原料のパーム油の分野でリーダーシップ宣言の実行を明確にしています。サラヤは2004年にRSPOに加盟し、2009年から認証RSPOパーム油を導入、同じ年にサプライチェーンにおけるRSPO認証も受けています。これは、日本では最初のことです。

「ハッピーエレファント」としてリニューアルされた「ヤシノミ洗たくパウダー ネオ」は、セグリゲーションの認証油を原料とする商品として2010年に発売されました。それに加えて、サラヤは、2006年より継続してボルネオ保全トラストの設立に協力し、支援を続けています。また、サラヤは2006年より継続してヤシノミ洗剤シリーズ商品の売上げ1%で、キナパタンガン川の緑の回廊の保護地の確保や野生動物の救出を支援しています。

サラヤは、最速で生物多様性へのマネジメント・システムを進歩させて来ました。新しい技術革新を遂げた「ハッピーエレファント」の洗たくパウダーや食器洗い機用ジェルのように進化させてきました。

未来の世代のための自然資源の保全は、活動的な支援と民間を巻き込んでこそ成し遂げられるのです。サラヤのようなバイオニアがあればこそ、数々の企業が生物多様性の保全に目覚ましい貢献をすることが出来るのです。この取り組みが次第に多くの顧客にしっかりと認められることは確かです。故に、更家社長とその社員に「バイオダイバシティ イン グッドカンパニー イニシアティブへの宣言とこれからの支援へのお礼を述べたいと思います。

エドガー エンドルカイトス
Deutsche Gesellschaft für
Internationale Zusammenarbeit(GIZ)

※ SusCon: International Conference on Sustainable Business and Consumption



UNEP 国連環境計画事務局長
アヒム・シュタイナー氏(Achim Steiner)

筆者、エドガー・エンドルカイトス氏

サラヤはWHOの“Clean Care is Safer Care”のプログラムによる医療関連感染予防を本業と社会貢献の両面よりサポートしています。

世界の患者安全への挑戦 — 医療関連感染予防の推進

WHOのグローバル・アクション

WHO(世界保健機構)は2005年に「第1回世界の患者安全への挑戦(Global Patient Safety Challenge)」を開催、“Clean Care is Safer Care(衛生的なケアが安心なケア)”のプログラムが立ち上げられ、医療関連感染予防における医療従事者の手指衛生の重要性が指摘されています。特にアルコールによる手指消毒を推奨しており、サラヤはヒビスコールをはじめとするアルコール商品のご提供とともに、このプログラムの普及のサポートをいたします。Medical SARAYAサイトでWHOの手指衛生ガイドラインを紹介しています。<http://med.saraya.com/who/>をご参照ください。

世界の患者安全への挑戦とは

WHO本部において「第1回世界の患者安全への挑戦(1st Global Patient Safety Challenge)」と題した会議が2005年10月13日に開催され、“Clean Care is Safer Careのプログラムが立ち上げられました。患者安全のための感染制御を重視し、手指衛生の向上を中心に医療関連感染の発生を減少させることを目的としています。特にアルコールによる手指衛生が推奨されています。既にWHOの働きかけによって、128カ国が賛同を表明していますが、これは内戦中の北アフリカなどを除いた世界の89.3%のエリアです。

この一環として、2010年9月21日(火)、WHOより手指衛生に関わる企業が招聘され、WHOの手指衛生推進のための国際的活動に関する協力・貢献に関する会議「A meeting with WHO, HQ and University Hospitals Geneva」が開催されました。メンバーとなった企業は世界8社でしたが、アジアからは唯一サラヤが参画いたしました。

会議では、手指衛生を促進させ、遵守率向上の基礎となる3つのテーマ(①アルコールによる手指消毒の推進②教育③研究)に分かれ、意見交換の場が設けられました。2011年7月4日の同会議にもサラヤから1名が参加いたしました。



2010 WHO 会議参加者：左より2人目 吉田葉子(当社 メディカル事業本部学術部)、右より2人目 Prof.Pittet(リード・ディレクター)

Prof.Pittet 講演会

WHO Global Patient Safety Challenge を日本に紹介するためにDidier Pittet 教授(ジュネーブ大学附属病院)を招聘し、講演会を3都市(福岡、仙台、横浜)で開催しました。講演では、手指衛生を実施する適切なタイミングやWHOのプログラムなどについて、グローバルな視点での紹介がなされました。

その他、全国各地で医療関連感染予防に貢献する多数の講演会を開催または協賛しています。詳細はWEBサイト、Medical SARAYAの「セミナー・展示会情報」<http://med.saraya.com/seminar/report/>をご参照ください。

災害時の感染予防サイトを開設

災害後の被災地や避難所などでは多くの人が入り出りする上、被害の大きさに伴う避難の長期化などから感染症の流行を予防するための対策が必要です。

多くの感染症は基本的な予防対策で流行を防ぐことができます。個人の衛生対策の励行に加え、避難所全体での衛生的な環境の維持・管理といった取り組みが重要です。

サラヤは2011年4月より、災害時の感染予防マニュアルをWEBに掲載している他、PDFをダウンロードできるようにしています。避難所でご利用いただくための衛生啓発ポスターもダウンロードできるよう掲載しています。



サラヤが開設した災害時の感染予防サイト
<http://www.saraya.com/eq0311/saigai/>

国連持続可能な開発会議、通称Rio+20にサラヤから2名が参加しました。今回は残念ながらサイドイベントなどでの発表の機会はありませんでしたが、以下は会議に参加した体験レポートです。

国連持続可能な開発会議に参加して

サニテーション事業本部
営業推進主幹

更家 一徳 (文と写真)

Rio + 20は「国連環境開発会議(地球サミット)」から20周年を迎える機会に同会議のフォローアップ会合として提案されたもので、約190カ国から各国首脳約100人を含む約4万5千人が出席しました。「我々が望む未来(Future We Want)」をテーマとして、次の2点を主な争点として議論されました。

- ・ 持続可能な開発及び貧困根絶の文脈におけるグリーンエコノミーの提唱
- ・ 持続可能な開発のための制度的枠組み作成

グリーンエコノミーとは、環境保全や持続可能な循環型社会などを基盤とし、再生可能エネルギーの研究や環境分野の雇用促進、環境対策への投資など、環境問題への取り組みを経済の中心に据えることで経済発展と環境保全の両方の課題を同時に解決することを目指す経済モデルであり、本会議で採択された成果文書において、はじめて国際的に「重要な手段」と認識されました。

また、環境保全と貧困撲滅に向けた「持続可能な開発目標」を2015年までに策定することも決定しました。反面、経済行動を制限されることを懸念する発展途上国の抵抗は激しく、意見集約は非常に難航し、具体的な数値目標や達成のための取り組み内容を成果文書に盛り込むことはなく、最低限の共通基盤に関する合意を得たのみに終わりました。

また、金融危機対策に追われるヨーロッパ諸国をはじめ、日本やアメリカなど主要国首脳の欠席も目立ち、発展途上国が強く求めていた資金援助に関しても実質的な数値目標は出せず、先進国としてのリーダーシップを発揮することはできなかったとの声も挙がっています。そのため、現状では、ほとんど成果が見られなかったといった失望や批判の声が大きく、様々なメディアや環境団体からの酷評も、少なからずありました。

一方、変化し続ける世界情勢の中で、破綻しつつある従来の発展モデルから、新たな発展モデルへの需要について認識が深まるきっかけにはなったことや、民間部門の取り組みを含め、様々なツールを使った世界規模での情報発信、コミュニケーションが問題解決に向けて必要な圧力を生み出すものとして、開発会議の開催自体を有用な成果だとしてみる肯定的な意見も多くあります。

前述の通り、今回のサミットでは、先進国と発展途上国、工業国

と新興国、資源国とそうでない国など、テーマを挟んでそれぞれの間では非常に大きな意識のギャップがあり、なかなか成果文章の合意に至ることが出来ませんでした。

国同士、地域同士での大きな枠組みにも様々な課題がありますが、私は、このサミットの現地において、より我々に近いレベルにおいても大きな隔たりを感じました。あくまでも利潤追求をベースとし、自身の持続可能な成長戦略の一環として環境への取り組みを模索する企業と、諸問題に対する不満や危機感から生じた思想をベースに、対応策を模索する民間団体との間では意識が違うのは当然ですが、どちらも当方に都合のよい意見やデータだけを集約し、お互いの事情や内情からは視線を外しているように見受けられました。そのため、Rio+20においても多くの活動や意見のプレゼンテーションがありましたが、「ポーズだけの広報活動の一環としての環境対策」「手段が目的化したデモンストレーションのためのデモンストレーション」など、発信した時点で自己完結してしまっているものが多く見受けられ、真の問題解決に繋がるものがどれ程あるのか、疑義の念を抱かざるを得ませんでした。

故に、このギャップを埋め、それぞれが本当の意味での合意を目指し、手を取り合うためには、企業側もより現場に身を置き、現状をしっかりと把握しなければならないし、民間団体も、企業の内情をしっかりと理解した上で、より現実的でクリティカルな情報の発信や、現実路線に則った取り組みへのアプローチを行っていかねばならないと感じました。

サラヤは、現在その両サイドから独特のポジションで活動しています。私企業でありながら、環境への取り組みなどに関しては業界のトップランナーとしてNPOやNGOとかなり緊密に連携し、様々な活動に取り組み、同時に衛生・環境・健康の広い分野に渡って地道な企業活動を長年積み上げ、他の企業や消費者の方々にも一定の信頼をいただき、いくばくかの影響力も持たせていただいております。

より複雑化、深刻化する環境問題に対処するためには、現地での活動を行いながらも、他の企業やユーザーを巻き込んで現実的な訴求を行い、両者を繋げる橋渡しとしてのトップランナーを目指して行くことが、私どもサラヤの果たすべき役割であると思いました。

(おわり)



デモ視察中の筆者

100万人の手洗いプロジェクト

ウガンダで手洗い普及のためのユニセフ支援と医療関連感染予防事業の開始

世界手洗いの日

サラヤは、「世界の衛生に貢献する」をメインテーマとして企業活動をしています。2009年10月15日「世界手洗いの日」のボランティアパートナー企業としての参加をはじめました。これは「手をあらおう。手をつなごう。」のスローガンの下にユニセフが中心となって、2008年よりはじめたものです。

世界では、年間880万人もの5歳以下の子どもたちが、予防可能な病気が原因で命を落としています。右のグラフからアフリカ諸国で死亡率が高いことがわかります。まず、石けんを使って正しく手を洗うことで、その原因となっている下痢性疾患や肺炎を予防すれば、大きく死亡率を下げることができると期待できます。適正な手洗いを普及させることによって、ウガンダ共和国で100万人もの子どもたちの命が守られると考えられています。

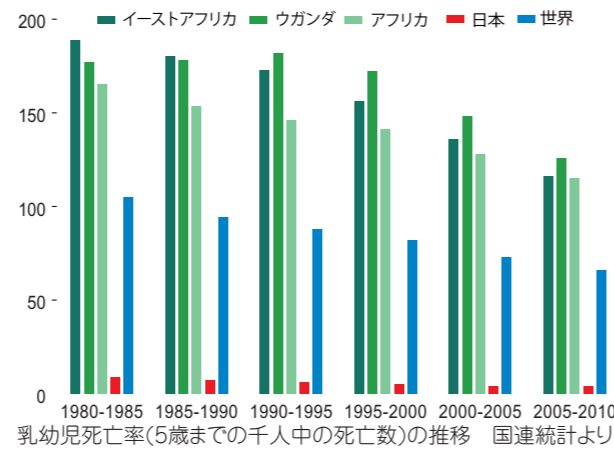
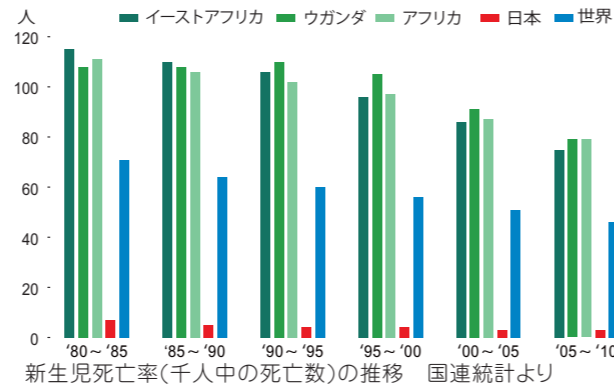
SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト

この「世界手洗いの日」への協賛がひとつの契機となり、衛生を本業とするサラヤは2010年3年計画でアフリカのウガンダでの手洗いの啓発活動を開始しました。銘打って「SARAYA100万人の手洗いプロジェクト」とし、2010年秋より対象となる衛生製品（ハンドソープ・アルコール手指消毒液）のメーカー出荷額の1%をユニセフに寄付し、ユニセフがウガンダで展開する「せっけんを使った正しい手洗い」の普及活動を支援します。

目標額は、3年間で3千万円以上とします。目的は下記の4項目です。

- ・40県、120万人の母親/保護者を対象として、対面での啓発活動や広報活動を行い、石けんによる正しい手洗いの必要性とその方法を伝える。
- ・40県、5歳未満児の母親45万人が、手洗いイベントに参加できるようにする。
- ・40県13,500村を対象に研修を行い、正しい手洗いの必要性とその方法を広められるボランティアスタッフ（手洗いアンバサダー）を育成する。
- ・40県の手洗い促進プログラムが、適切な技術支援を受けられるようにする。

サラヤ商品で手洗いしていただければ、東アフリカ、ウガンダの地で子どもたちに命を守る手洗いの大切さを教えることができます。tearai.jpで、「100万人のつづき募金」にもご協力お願いいたします。



ウガンダの小学校での手洗い指導(2012年)



手洗い後の廃水も、バナナの木に吸収され、無駄にはなっていない。

進捗状況

この手洗いプロジェクトは、2012年に3年目を迎えました。プロジェクトの進捗状況を確認するため、アフリカ・ウガンダの衛生の今を知るために、2012年2月12日から社長の更家悠介をはじめプロジェクトチームは、3度目の視察を実施しました。主な成果は下記、

- ・120万人の母親への啓発活動
- ・3,176名の手洗いアンバサダー(最初に手洗いキャンペーンを伝える)を養成し、任命されています。
- ・Tippy Tap(簡易手洗い設備)数十万基の設置、2011年は46,306基が設置されました。手洗い実施率は24%から29%に上がり、60万人以上が手洗いを励行しています。
- ・ラジオCMなどで手洗いキャンペーンを展開。(推定300万人の母親が聴取)

ギガア小学校の先生は、Tippy Tapの設置後にコレラが減り、もうコレラで欠席の児童はいないと言っています。他県でも、実際にTippy Tapを普及させてみたら、下痢、腸チフスなどの病気が減りはじめたと手洗いアンバサダーは報告しています。

小学校に手洗いタンク 354 基を設置

また、スタンドと手洗い桶のついた手洗い用タンク(60ℓ)合計354基が調達され、グル県、キトゥグム県、パデル県、アビム県の177校の小学校で活用されています。



保健センターで

保健センターでは、水が十分になく、出産後の産湯もできません。助産婦さんにはアルコール手指消毒を広めたいと視察チームは痛感しました。新生児のお母さんの手洗い指導も手洗いアンバサダーの仕事です。適切な手洗い指導が赤ちゃんの高い死亡率を確実に下げることにつながります。

子どもを死なせずに育てられるということがお母さんたちに浸透すれば、それは結果的に出生率の低下につながります。出産や子育ての重圧から少し開放されるように、母から子へ手洗い習慣が文化として伝えられるようになれば、心から願わずにはいられません。

県ごとのトレーニングを受けた手洗いアンバサダーの数					
Iganga	60	Mukono	61	Arua	102
Dokolo	75	Amuria	122	Lira	150
Nebbi	60	Pallisa	302	Tororo	88
Soroti	100	Abim	92	Katakwi	206
Kamuli	80	Kumi	214	Mbale	82
Kyenjojo	134	Bushyeni	180	Mpigi	70
Mbara	70	Kabarole	66	Hoima	167
Kasese	66	Wakiso	68	Mubende	70
Kawempe	62	kiboga	134	Kabale	70
Bundibugyo	75	Ntungamo	80	Maska	70
				合計	3,176名



「Tippy Tap」。こんなに簡単なもので、井戸から汲んで来ただけの水での石けんの手洗いで実際にコレラや赤痢が予防できている。

世界の衛生に貢献 — ウガンダから BOP ビジネスを開始

持続可能な手指衛生をソーシャル・ビジネスとして

サラヤのアフリカ拠点

サラヤとウガンダ。その関係はユニセフがウガンダで進める手洗い普及活動を「100万人の手洗いプロジェクト」としてサラヤが2010年からサポートしはじめたことによりスタートします。プロジェクトでの現地視察を通じて、ウガンダが抱える様々な開発課題を、そして同時に多くの問題を抱えつつも力強く着実に国発展の歩みを進めるウガンダが持つ大きな開発ポテンシャルを目の当たりにし、より長期的に、何より持続可能な形でこの国の発展に寄与して行きたいというサラヤスタッフの思いを形にするため、Saraya East Africa Co., Ltd.(サラヤ・イースト・アフリカ株式会社、以下ESAと略)は2011年5月、サラヤ20カ所目の海外拠点としてウガンダに設立されました。(2012年7月時点で22拠点)

ウガンダの乳幼児死亡率

SEA 立ち上げにあたり SEA の基幹事業として定められたのが、ウガンダでのアルコール手指消毒剤の生産、販売です。赤道直下（とは言え国土の大半で標高が1,000mを超えることから年間を通じて気候は温暖）淡水湖として世界第二位の大きさを誇るビクトリア湖北岸、かつてチャーチルをして「アフリカの真珠」とまで言わしめた緑豊かで肥沃な大地が広がるウガンダ。近年はそのポテンシャルを活かし安定した経済発展を続け、国連のMDGs(Millennium Development Goals)もほとんどのターゲットで達成が確実視されているものの、ネックとなっているのがGoal 4「乳幼児死亡率の削減」、Goal 5「妊産婦の健康の改善」と公衆衛生に関する2項目です。

最新の国連経済社会局の統計によるとウガンダの5歳未満乳幼児死亡率は126人/1,000人(日本:4人/1,000人)、妊

産婦死亡率は430人/100,000人(同6人/100,000人)といずれも世界的に見て非常に高くなっています。ウガンダの子どもが命を落とす2大要因は下痢性疾患と呼吸器系感染症とされますが、これらの感染症は適切な衛生環境を整えることによって75%が予防可能と言われていています。

また医療従事者や助産師が適切な手指消毒を行うことが出来るようになれば、妊産婦死亡率を引き上げる大きな原因となっている分娩時の感染症罹患率も抑えることが出来るのです。しかし、ウガンダでは未だ村落部に行く、ある程度規模の大きな病院でも医療従事者の手指衛生を徹底するための清潔で十分な量の水をコンスタントに確保することが難しいのが現状です。

持続可能な生産

その様な状況を鑑みSEAではサラヤが培ってきたノウハウを活かした良質なアルコール消毒剤の生産、販売を行うことにより、広くウガンダの衛生環境改善、ひいてはMDGsの公衆衛生に関するGoal4とGoal5の2つの目標達成に貢献できるのではないかと考えに至りました。アルコール消毒剤の生産体制を確立するにあたっては、消毒剤におけるMDGs目標達成への寄与だけでなく、「持続可能性」も重大なテーマの一つとなっています。

大きな農業的ポテンシャルを持ったウガンダでは幸いにして、アルコールの原料となり得る農作物は豊富に栽培されています。しかし、環境負荷とフードセキュリティを考慮すれば原料となる作物栽培のために新たに農地を切り開いたり、食用作物を原料として利用したりすることは好ましくありません。そ

ミレニアム開発目標

今日われわれが直面する主たる課題は、グローバル化によって前向きな力となるように確保することである。

-  **Goal1:** 極度の貧困と飢餓の撲滅
-  **Goal2:** 初等教育の完全普及の達成
-  **Goal3:** ジェンダー平等推進と女性の地位向上
-  **Goal4:** 乳幼児死亡率の削減
-  **Goal5:** 妊産婦の健康の改善
-  **Goal6:** HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
-  **Goal7:** 環境の持続可能性保全
-  **Goal8:** 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

ここで、SEAでは2013年を目途に廃糖蜜を原料とした燃料添加用バイオエタノールの生産プラント建設を計画しているウガンダ最大手の製糖会社カキラシュガーに協働を打診しました。

廃糖蜜由来のバイオエタノールを用いることにより、原材料確保にかかる環境負荷を下げ、サトウキビそのものを原料として用いるエタノールと違い食糧(砂糖)価格へのインパクトを心配する必要もありません。また、製糖工場敷地内へ消毒剤生産ラインを建設することで、バガスと呼ばれるサトウキビの搾りかすを燃料とした火力発電プラント(この製糖工場では工場と敷地内に住むスタッフ用住居で消費される全ての電力をこのバガス発電でまかなっており、余剰分はナショナルグリッドに売電しています)からの電力供給を期待することが出来ます。長期的な視野に立った場合、環境面での持続可能性はもちろんのこと、身を置く社会そのものの持続可能性もまた同時に考えて行く必要があります。

インクルージブ・ビジネスとして

近い将来ウガンダが直面するであろう社会的課題の一つが急激な人口増加です。国連の統計によると、現在のウガンダの合計特殊出生率は6.38。1970年ごろに1,000万人を超えた人口は、2012年現在およそ3,400万人。2050年には9,000万人を超えるとされています。人口の半数が15歳以下のウガンダでは、その若さが国の活力となっていることは確かです。しかし、同時に急激な人口の増加に社会システム、特に産業構

造の変化が追い付かず、人口増に起因する様々な社会問題が今後頻出してきても間違いありません。

現在ウガンダでは労働人口のおよそ8割が農業に従事していますが、GDPに農業セクターが占める割合はわずか2割程度しかありません。この歪な産業構造を是正するためには農業セクターの生産効率と収益性を改善すると同時に年々増加する労働人口を受け入れるための新たな産業を生みだして行く必要もあります。

SEAのアルコール生産事業では、廃糖蜜に付加価値を加えることでサトウキビ農家の生活改善に寄与し、また工場の生産ラインや販売スタッフだけでなく、アルコール消毒剤というウガンダでは未だ一部の医療従事者を除き全くと言って良いほど市民権を得ていない商品の普及を担う人材を育成、雇うことでも新たな雇用の創出に貢献することが出来ると考えています。

以上、SEAがウガンダに対してどの様な貢献が出来るか、という視点から書いてきましたが、「ビジネス」を名乗る以上、収益性を第一に考えて行くことは当然です。しかし、その点に関して我々はそれ程心配していません。そもそもSEAを立ち上げるに当たって、サラヤ・ウガンダではなく、イーストアフリカをその名に冠したのは、冒頭に書いた通りウガンダだけでなくウガンダを中心とした東アフリカ地域全体に大きな市場としての可能性を見出したからに他なりません。

そこには、「ビジネス」と聞いて多くの人が思い浮かべる様なパイの分捕り合い、ゼロサムゲームではなく、企業とその顧客だけでなく、その社会に生きる全ての人々が分かち合っなお腹一杯になれる、ウィンウィン+ウィンの関係を築くことが出来る、十二分に大きなパイが焼けるだけの生地=可能性に満ち溢れていると我々は確信しているのです。



カキラシュガー

サラヤ・イースト・アフリカ株式会社
代表 宮本和昌

宮本和昌



4. サプライチェーン

ボルネオの熱帯雨林は、多様な樹木が混在していて、1haあたりに同種の木がほんの数本しかないことが調査でわかっています。また、その樹木の一本一本に様々な着生植物があり、その一つひとつにさらに色々な昆虫が棲んでいます。樹高70mに及ぶ樹冠(樹上の梢)の昆虫についてはほとんどが未確認であると考えられています。

ボルネオの生物多様性

WWF(世界自然保護基金)によると、2007年2月~2010年4月に123種、月平均3種の新種の動植物が発見されたということです。

霊長類 10種
哺乳類 223種
鳥類 350種

植物 約1万種
爬虫類・両生類 150種

昆虫 不明(数百万種)
新種の発見 3種/月

野生生物保護へのサラヤの協力

マレーシア サバ州でのオランウータンやボルネオゾウの保護活動支援

ここ数十年間サバ州では、原生の生態系が人間の経済活動により、大きな負荷を受けています。森林の商業伐採や農業地への開墾が自然の生態系の実質的な損失を招いています。熱帯雨林の減少と分断が生態系の回復力を危機的なまでに弱め、野生生物の生息数を減らし、同様に地元民の生活も困難にした結果、人間と野生生物の衝突が絶え間なく起こっています。

サラヤとボルネオ保全トラスト、ウータンは、長期の協力関係を築き、サバ州東部のキナバタンガン下流域の野生生物の回廊を復元するために活動しています。

ウータンは、野生生物を保護するために1998年にサバ州に創設され、野生生物と棲息地の科学的研究と、地元民への出先機関として能力開発・教育・啓発活動をつなぐ手法で統括的な保全を発展させてきました。ウータンは、サバ州野生生物局や広く様々なパートナーと協力して、現実的な解決策をたて、自然資源の使用と長期の経済発展が、野生生物と棲息地の保全とを両立出来るよう目指してきました。

オランウータンの吊橋

キナバタンガン下流域には、約1000頭のオランウータンが棲息しています。しかしながら、これは20の集団の総数であって、パームプランテーションや道路、村落さらに川や大きな排水溝によって、お互い孤立した集団に分断されてしまっています。この細かな分断化が、今や、近親交配の危険性と遺伝子の多様性の減少をもたらし、キナバタンガンのオランウータンの生存の最も大きな脅威となっています。

ちょっとした小川でさえ、カナヅチのオランウータンは渡れないと確認されたのです。支流の上空で対岸の樹冠が繋がっていなければ、オランウータンは川を越えられないのです。水辺の熱帯雨林を縦断する大きな排水溝がパームプランテーションのために建設されていますが、これがオランウータンにとっては、川よりもはるかに大きな障壁となっています。

吊橋を造ることで、オランウータンや樹上に生息する野生生物が安全に小川を渡ることができます。2008年以来、オラン

ウータンが渡る吊橋を架けるために、日本のボランティア・チームがキナバタンガンを訪れています。日本の消防署が寄付した使用済みホースを材料に、動物園の飼育の専門家が設計し、数本の吊橋を架けています。

保護林の購入

キナバタンガン下流域では、野生生物を救う鍵となる緑の回廊をつくることを目的として、サラヤはウータンやBCTを支援し、恒久的に自然林として保護するために個人所有の土地を購入する活動を支援しています。この土地がもしも農耕地になったら、野生動物の移動、とりわけボルネオゾウの移動に大きな障壁となってしまう、重要な位置にあります。2007年から、日本からの基金で100エーカーの土地が、既存の保護区へとつながる安全な道として確保されています。

人と野生生物の調和の復活のために

広い範囲の重要なプロジェクトの中で、キナバタンガンの緑の回廊の確保のため、サラヤとサバ州の協力による息の長い努力が実り、オランウータン、ボルネオゾウなどの野生生物が絶滅からまぬがれるだろうという予測もより確かなものになってきています。それがまた、人間と野生生物の軋轢を和らげ、人々この地の固有種との間の調和を復活させるよう作用しています。

イザベル ラックマン(霊長類学博士)
Director of Hutan - Kinabatangan
Orang-Utan Conservation Programme



I. Lackman

写真 Copyrights: Hutan



原料調達における CSR

パーム油は労働集約型農業

パーム油の単収の 3.18 ~ 4.25t/ha(2010 年) に対して、大豆油は約 1/8 で 0.5 t にも届きません。であるのに、ここ数年はパーム油と大豆油の価格差がどんどん縮まる傾向がありました。その理由として、大豆油は大豆製品の一部であって、量においても、金額面からも大豆油が主製品とは言えないこと、油でなく大豆自体の単収率は 2.48t、とそれ程劣るものではないことがあげられます。

さらに大きな理由は、パーム・プランテーションは千 ha 当たり 250 ~ 300 人の従業員が必要と見られています。また厳しいノルマが課せられていて、家族を巻き込んだ労働が強いられる状況にあるプランテーションもかなり存在しています。アブラヤシ(パーム)が労働集約型農業であるのに対して、アメリカの大豆農家であれば、250ha を家族と収穫期のみ数人のパートを雇って運営していることなどから、労働者一人当たりの生産量には、逆に桁違いの格差があります。

機械化できないアブラヤシの収穫

他の植物油との競争力でアブラヤシのネックとなるのは、果房の収穫が熟練を要する作業工程であり、機械化・効率化が困難なことです。高くなると 30m の木の上部になる果房を長い竿の先端の大鎌で切り落とし、落ちた果房を手や荷車で運び、農園内のトラックに乗せ、搾油場に持ち込みます。

電動の鎌を導入することやハイブリッドの背の低いパーム樹を開発するといった対応は行われてはいるものの、収穫は人手に頼るしか方法がないのが現状です。生産性の向上を期待できないのは、これが主な原因です。

さらに搾油工場の大規模・効率化が困難な理由は、パーム油は種子ではなく果肉から絞るため、劣化が早いので収穫から 24 時間以内に搾油する必要があることです。競争力を保つためには、労働コストを抑える必要があり、低賃金など様々な労働問題が派生しやすい状況にあるのです。パーム・プランテーションが「緑の監獄」と言われてきた所以です。RSPO 認証油 (p.18 参照) は、持続可能な 8 原則とその基準の順守確認の厳しい監査をクリアしています。

参考文献：「油脂」Vol.64, No2(2011) パーム油が支える世界の油脂需要

持続可能なパーム油の原則

原則 1. 透明性へのコミットメント

原則 2. 適用法令と規則の順守

原則 3. 長期的な経済的・財務的な実行可能性へのコミットメント


原則 4. 栽培者及び製造・加工業者によるベスト・プラクティスの活用

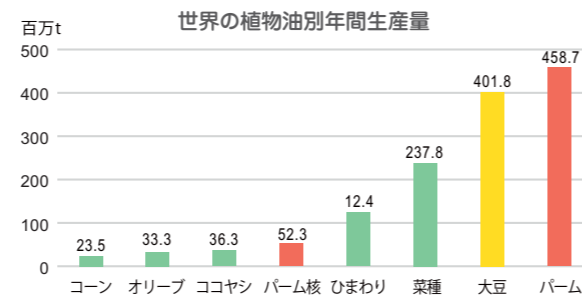
原則 5. 環境に関する責任と資源及び生物多様性の保全

原則 6. 栽培者や製造・加工工場によって影響を受ける従業員及び個人やコミュニティに関する責任ある配慮

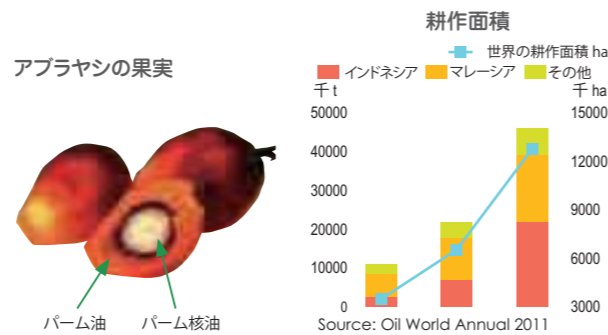
原則 7. 新規プランテーションの責任ある開発

原則 8. 主要な活動分野における継続的な改善へのコミットメント

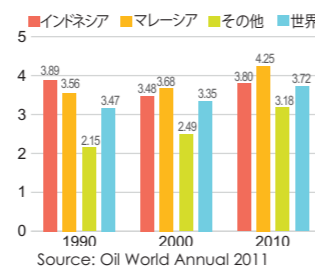




Source: Oil World Annual 2011

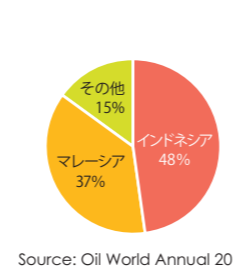


パーム油の生産量と単収の推移



Source: Oil World Annual 2011

パーム油の生産国比率



Source: Oil World Annual 2011



30kg 前後のアブラヤシの果房の収穫、長い竿の先の鎌で切り落とすので、熟練した技術が必要。危険作業でもある。

プランテーションの労働環境

マレーシアの半数のプランテーションは国営で政府はマレー人優遇政策をとっており、賃金も労働環境も良好ですが、奥地に行くほどに労働環境は劣悪になる傾向があります。

問題として挙げられるのは、低賃金労働、労働安全の問題、児童労働、女性の不利な扱い、不法労働者への搾取、農業の問題などがあります。

低賃金 マレーシアの最低賃金は300リンギ(8千円前後)だが、パームプランテーションの場合、一家族全員の収入が300リンギ程度である場合がある。

児童労働 マレーシアの国政調査で、10歳以上14歳未満の子ども2万2000人がプランテーション(ゴム園も含む)で働いていることが公表されている。

労働安全 幹に直接農業を注入する作業を女性が担う場合が多い。失明や死亡に到る事故もある。マレーシアは、農業の規制が甘く、「農業天国」とも言われているのが実情。


参考文献：峠 隆一 パーム油を考える
http://www.gef.or.jp/seisakuteigen/2006seminar_pdf/2_2_toge_palm.pdf 2011年7月29日

RSPOの原則と基準

RSPOとは、「持続可能なパーム油のための円卓会議」Roundtable Sustainable Palm oilの略で、2003年にWWF(世界自然保護基金 World Wide Fund for Nature)の呼びかけによってスタートし、2004年4月にNGOとして設立されました。パーム油の生産が、熱帯林の保全やそこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないようにするため活動しています。サラヤは2004年末に入会しています。

RSPOの8つの原則のうち、原則4では農業の使用について基準が定められており、原則5では、生態系や生物多様性に関する責任や保全の義務が求められており、原則6では、従業員を主に、ステークホルダーへの責任ある配慮についての基準が定められています。労働安全、最低賃金の保障、児童労働の禁止、女性の権利の保障など細かい基準が定められています。以下は原則4と原則6の基準の全文です。

RSPO 原則 4 と 6 に定められた基準



原則 4 栽培者及び製造・加工業者によるベスト・プラクティスの活用

基準 4.1 作業手順は適切に記録され、常に実施、監視されなければならない

基準 4.2 農業により、土壌の肥沃度は最適かつ持続的な収量を確保するレベルに維持されるか、もしくは可能であれば土壌の肥沃度を向上させなければならない

基準 4.3 農業により、土壌の侵食や劣化が緩和・抑制されなければならない

基準 4.4 農業により、地表水や地下水の質及び入手可能性が維持されなければならない

基準 4.5 害虫や病気、雑草や侵入外来種は適切な統合的害虫管理 (IPM) の技術を適用して効果的に対処されなければならない

基準 4.6 農業は、健康または環境を危険にさらさない方法で使用されなければならない。予防的使用法がなく、そして WHO(世界保健機関) の 1A 型または 1B 型に分類されているか、またはストックホルム条約もしくはロッテルダム条約でリストに挙げられた農業が使用される場合は、生産者は積極的に代替品を特定するよう努力し、それは記録されなければならない

基準 4.7 業務上の健康と安全に関する計画は文書化され、効果的に伝達・実施されなければならない

基準 4.8 すべてのスタッフ、労働者、小自作農、請負業者は適切に教育されなければならない

原則 6 栽培者や製造・加工工場によって影響を受ける従業員や個人、コミュニティに関する責任ある配慮

基準 6.1 プランテーションや製造・加工工場が影響を及ぼす社会的側面は、参加型手法で特定され、悪影響を緩和し、効果を促進するための計画、継続的な改善が実証されるように作成、実施、監視されなければならない

基準 6.2 栽培者及び/または製造・加工業者、地元コミュニティ、その他の影響を受ける、または関心のある利害関係者との間の情報交換や協議のためのオープンかつ透明性のある方法が存在しなければならない

基準 6.3 相互に合意・文書化された苦情処理システムがあり、それはすべての関係者によって実施、承認されなければならない

基準 6.4 法的または慣習上の権利の損失に対する補償金に関する交渉は、先住民や地元コミュニティ、その他のステークホルダーが自らを代理する組織を通じて意見を表明できるような、文書化されたシステムによって行われなければならない

基準 6.5 従業員及び請負業者経由の従業員に対する賃金や条件は、常に少なくとも法的または業界の最低基準を満たし、従業員の基本的ニーズを満たし、可処分所得を与えるのに十分でなければならない

基準 6.6 雇用者は、すべての従業員に対して自分たちの選択で労働組合を結成・加入し、団体交渉する権利を尊重しなければならない。組合や団体交渉の自由に関する権利が法律の下で制限される場合、雇用者はそのような従業員に対して独立した自由な組合や団体交渉を確保する同等の方法を推進しなければならない

基準 6.7 児童労働は行われてはならない。児童は有害な労働状況にさらされてはならない。児童による労働は家族農園において、大人の監督の下、教育プログラムを妨げない場合に容認される

基準 6.8 雇用者は人種、社会的階級、出身国、宗教、障害、性別、性的志向、労働組合への加入、政治的所属、年齢に基づく差別に加担したり、それを支持したりはならない

基準 6.9 セクシャル・ハラスメントや女性に対するその他のあらゆる暴力行為を防ぎ、女性のリプロダクティブ・ライツ(性と生殖に関する権利)を保護するための方針が策定、適用されなければならない

基準 6.10 栽培者と製造・加工業者は、小自作農やその他の地元企業に対し、公平かつ透明性を持って応対しなければならない

基準 6.11 栽培者と製造・加工業者は、可能な限り、地元の持続可能な発展に貢献しなければならない

(翻訳:財団法人 地球・人間環境フォーラム)

グリーン調達

RSPO認証パーム油の使用

CSR活動としてのNPOなどの支援やソウヤオランウータンの救出だけでなく、本業としての持続可能性への取り組みが求められています。そのひとつの答えがRSPO認証パーム油を使用することです。2010年10月8日、日本初となるRSPO SCCS (Supply Chain Certificate System) を取得し、栽培から加工までを認証原料に限定する分離方式で製品化されたパーム油のみを原料に商品の製造を開始しています。

この認証パーム油から酵母の醗酵によるソホロリピッド(天然界面活性剤)を製造し、配合した洗たくパウダーと食器洗い機用洗剤の「ハッピー エレファント」を販売しています。また、ヤシノミ洗剤シリーズ商品は、グリーンパーム認証(台帳方式)の原料に2012年以降はすべて切り替わっています。また、引き続きメーカー出荷額の1%で「緑の回廊計画」支援も継続しています。

RSPO、同認証油については下記サイトをご参照ください。
<http://www.yashinomi.jp/products/ninsho.html>
<http://www.wwf.or.jp/activities/resource/cat1305/rsports/>
RSPO公式サイト(英語)はこちらより。<http://www.rspo.org/en/>

バイヤーズ・スコアカードで最高ポイントを獲得

WWFが2009年に続いて発行した『The Palm Oil Buyers' Scorecard 2011』は、持続可能なパーム油の使用を促すためにWWFがはじめたものです。RSPOへの入会、認証油の使用量、認証油への変換のコミットメント、台帳方式の購入状況などを基準に満点を9ポイントとして、WWFが採点、公表しているものです。

パーム油の小売業者、原料にパーム油を使用する製品メーカーをあわせて世界132社を対象としています。サラヤは満点の9点と評価されました。詳細はこちら、http://wwf.panda.org/what_we_do/footprint/agriculture/palm_oil/solutions/responsible_purchasing/scorecard2011/

FSC森林認証紙の使用

再生紙配合率の偽装問題が話題になったことや、中国での紙の需要の急増により古紙の入手が困難になり、再生紙の供給が不足するなどの背景から、当社でも販促物の印刷用紙の使用に関して、従来の再生紙100%の印刷用紙使用の原則の見直しをしました。発注する印刷物においては、FSC認証紙を可能な限り使用することを当社EMSに登録、2007年11月より実施しています。

FSC森林認証には、次の10の原則と基準(国際基準)が定められています。この10原則とそれについての基準が細かく規定されています。これは、森林関連法や国際条約の順守や生物多様性保護、先住民の生活との協調、農業や肥料の細かな使用についての取り決め、絶滅危惧種への保護の措置、植

RSPO 認証油の種類

分離方式 Segregation

アブラヤシ栽培から加工、流通などすべての工程で、他の非認証油と混合されことなく管理されています。栽培から加工、流通まで環境や労働者への配慮が適切に行われて生産されていることがRSPOによって認証された原料です。ハッピー エレファント シリーズは全商品において、分離方式のRSPO認証原料を使用しています。



ハッピー エレファント

グリーンパーム認証(台帳方式 Book & Claim)

生産された数量の認証油を証券化し、それを利用者であるサラヤがパーム核油の原料使用量分の証券を購入しています。サラヤ製品に実際に使用されているのは通常のパーム核油由来の原料ですが、RSPO認証油の生産者には使用分の金銭的な還元がなされるので、持続可能なパーム油の生産や流通に貢献することができます。流通の段階において発生する設備投資や管理システムなどのコストを抑えるために考えられたシステムです。アラウシリーズには、グリーンパーム認証パーム油も一部使用されています。



WWF パームオイル バイヤーズスコアカード
http://wwf.panda.org/what_we_do/footprint/agriculture/palm_oil/solutions/responsible_purchasing/scorecard2011/

林をはじめとする持続可能な森林の管理、天然林の保護などが内容となっています。

10原則と基準を管理者が順守することを立証したFSC認証森林から伐採した木材チップを原料に、すべての工程をFSCが認証した工場で製造した印刷物に付けることができるのがFSCロゴマークです。

「間伐に寄与する紙」の使用

この環境レポートには、日本国内の間伐に寄与する紙を使用しています。これは、環境NPO オフィス町内会が運営する「森の町内会」の活動に1kgにつき15円を支援金として上乗せして、「間伐に寄与する紙」を購入するものです。

FSC 認証の 10 原則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法律と FSC の原則の順守 2. 保有権、使用権および責務 3. 先住民の権利 4. 地域社会との関係と労働者の権利 5. 森林のもたらす便益 6. 環境への影響 7. 管理計画 8. モニタリングと評価 9. 保護価値の高い森林の保存 10. 植林
----------------------	--

備品・副資材

制服

女子制服についてはエコマーク商品を採用しています。女子制服は、再生ペットボトルを再利用したポリエステルを55%以上混紡した生地を使用したものです。作業服は、再生ペットボトルを再利用したポリエステル15%と通常のポリエステル50%、綿35%混紡の生地を使用したものです。

使用後の制服・作業服の廃棄については、本社で一括回収したものを納入会社の協力の上、サーマルリサイクルや自動車の内装材や吸音材として再利用されるようにし、資源の有効活用を推進しています。

トナーカートリッジの再使用

使用済トナーカートリッジにトナーを充填し、再使用する事業をグループ会社などで運営しています。全社のプリンターやコピー機の使用済カートリッジは可能な限りトナーを再充填し、再使用しています。

間伐は、森林の機能低下を防ぎ、CO2の吸収力を維持し、また生物多様性の保全にも役立ちます。輸入木材チップより輸送にかかるCO2も削減できます。間伐は、岡山県西粟倉村の森林で行われており、政府からの補助金を足しても不足する資金を支援します。

販促物のリデュース

販売促進のためのパンフレットやカタログや環境レポートなどに使用する印刷用紙はFSC認証紙などを使用するだけでなく、使用する絶対量を減らすために、紙厚の薄いものを使用しています。

印刷用紙は、裏表で合計16ページを印刷できる全版サイズ1,000枚の重さを基準にしています。サラヤでは、チラシ・カタログの用紙(表紙は除く)を以前は110kgを使用していたが、2008年より90kgの紙厚の用紙を使用することを進めています。これによって18%以上の紙資源のリデュースができます。今後は、紙だけに頼らず、WEBやCD-R、電子書籍などの利用をさらに進めて参ります。2011年からは、営業ツールとしてiPadを利用し、印刷物の削減への試みを進めております。

グリーン購入ネットワークに加盟

当社は、1996年よりGPN(グリーン購入ネットワーク)に加盟しています。什器備品をはじめ、電気製品などについても、できる限りGPNのグリーン購入ガイドラインに沿った購入をするよう取り組んでいます。



什器備品

本社域では総務部門が購入管理している什器備品は、新規購入品についてはすべてグリーンマーク商品を導入しています。文具消耗品についてもグリーン購入を勧めており、全品目の70%以上がグリーンマーク商品もしくはエコマーク商品となっています。

5.環境マネジメントシステム

全従業員が同じ理念や方針を共有し、衛生・環境・健康をテーマとして、日々の仕事にいきそんでいます。

環境方針

1. 地球温暖化防止への寄与活動を推進します。
工場を始めとし、全事業所の使用エネルギー削減を推進します(省エネルギー)。
2. 資源節約と再利用の促進を推進します。
1) 事業活動全般において使用する資源を節約するとともに、各種資材について可能なものに関しては、再使用、回収・リサイクル促進を推進します。
2) 事業活動全般において発生する廃棄物の削減を推進します。
3. 環境負荷の低い製品開発に努めます。
設計・企画開発段階では、製品の環境負荷低減の検討を行います。
4. 工場では、環境負荷物質の排出量削減・騒音・振動・悪臭抑制など周辺地域への環境影響に配慮し、地域に信頼される事業経営を行います。
5. 地球環境問題の解決は、企業や地域での対応とともに地球規模での対応も必要であるとの認識から、生物多様性にも配慮し、先進国と発展途上国を持続発展可能なビジネスモデルで結びあうため、NPOや諸団体との連携を深めます。

行動指針

事業活動全般(開発—製造—管理—販売—物流 全部門)の環境影響評価を行い、環境方針・目的・目標を定め、1回/年 最高経営層による見直しを実施します。

また、全員参加の活動により、当社環境マネジメントシステムの継続的維持改善を図り、地球環境保護と環境汚染防止に努めます。

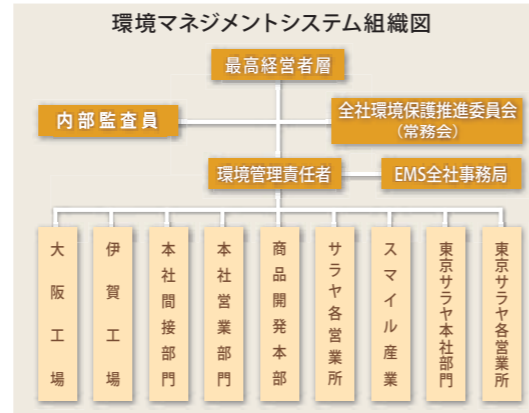
当社に関連する環境関連の法規・条例等の国、地方自治体公布の規則を順守するとともに、企業体として受け入れたその他要求事項も順守します。

品質方針

地球環境の保全、衛生、健康向上への寄与を目指し、お客様の信頼とニーズにお応えし、満足していただける製品とサービスをお届けする。

この為に、設計開発から製造・管理・流通・販売・サービスの提供に至る全社・全部門において顧客志向の観点から業務自己革新を図ると共に、当社全製品・サービスに関してお客様からの声を体系的かつスピーディーに収集分析し問題点を明確にして、速やかにその問題解決を実行する。

さらに、顧客要求事項、法的要求事項を含む種々要求事項への適合を図ると共に、全社・全部門においては、経営方針・品質方針を目標展開した「部門目標」到達に加え「その他不具合点」などを常時監視分析し、システムの有効性を維持し、かつ継続的改善を図るものとする。



環境マネジメントシステム

実際の活動単位は、事業所の中でさらに細分化され北海道から沖縄まで全国に渡り、全社 51 の部署単位で活動を行っています。EMS 全社事務局は、環境管理責任者を補佐し、全部門の日常活動管理を行います。

22名の内部監査員が年2回の内部監査で各部署の活動実施状況の厳しいチェックを実施しております。これら活動状況は、全社環境保護推進委員会(常務会)に報告されると共に、最高経営者層(社長)には、定期的マネジメントレビューにおいてすべて詳細な報告がなされます。

環境内部監査

環境内部監査は営業拠点と工場、本社関係も含め全国 51 の監査対象部署を監査チームが、年2~3回各1ヶ月程度かけて監査を行います。監査チームは10名の主任監査員と12名の監査員を中心に編成、監査部署に対して厳しい指摘や必

要なアドバイスが提示できるよう監査員の人数に配慮しています。対象部署の対応は、営業所長、各部署長、推進責任者、推進担当が中心となり、監査チームの質問に対応しながら、指摘事項に対して部署として十分納得した上で対応にあたります。アドバイス事項として、監査対象部署のシステム向上に役立つと思われる意見を積極的に提示しています。

ISO認証取得状況

ISO	対象	部署	取得日	認証番号
9002	サラヤ(株) スマイル産業(株)	大阪工場、伊賀工場	1999年12/13	JCQA-0608
14001	サラヤ(株) 東京サラヤ(株) スマイル産業(株)	全社	2001年11/26	JCQA-E-0319
	サラヤ(株) 東京サラヤ(株) スマイル産業(株)		2002年12/13	JCQA-0608
9001	Saraya(Dongguan)Hygiene Products Co., Ltd.	全社	2005年11/1	2516-2005-AQ-RGC-UKAS
	Saraya MFG.(Thailand) Co.,Ltd		2006年12/7	Perry Johnson Registrars, Inc. C2006-03284
13485	サラヤ(株)	本社、開発部門、BC研、大阪工場、伊賀工場	2006年12/22	Q1N0612 60114002
14001	Saraya MFG.(Thailand) Co.,Ltd	全社	2008年12/26	C2008-02808
22000	サラヤ(株) 東京サラヤ(株)	食品衛生インストラクター、検査室、各本社食品衛生部	2008年12/8	12510 34993 TMS

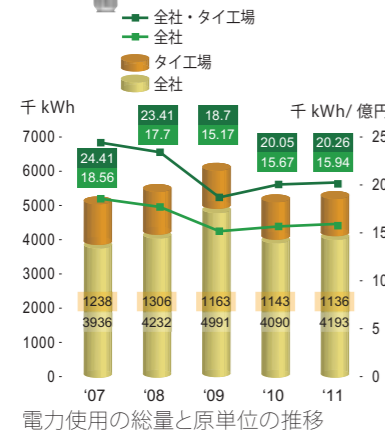
2011年環境内部監査実施状況

実施回	期間	実施部署	不適合数	コメント数
第1回	3/1~6/3	64	0	78(重度のコメント1を含む)
第2回	7/20~9/5	64	0	112(重度のコメント2を含む)

環境目標と実績

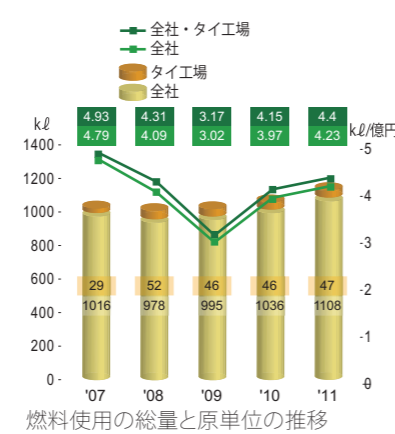
	取り組み内容と課題検証		次の重点取り組み	2012年目標
電力	1. 2011年目標全社で38%削減(2000年補正B/M比)、実績は事業規模拡大を加味し、38%の削減。 2. 個人生活にまで拡大した省電力化の取り組み 3. 設備投資を伴う省電力の継続検討 4. クールビズ、ウォームビズの継続啓発活動	目標達成	1. 従来活動の継続 2. 環境影響評価の再見直しによる省電力化の実施	対2011年の削減 -13%
燃料	1. 2011年目標全社で40%削減(2000年補正BM比)、実績は事業規模拡大を加味し、38%の削減 2. 設備投資に伴う省エネルギーの継続検討 3. 物流部門でモーダルシフトの推進	未達成	1. 従来活動の継続 2. 営業車両のハイブリッド車の導入 3. 製造部門の省エネ診断の実施	対2011年の削減 -7%
上水	2011年目標全社で35%削減(2000年補正BM比)、実績は事業規模拡大を加味し、44%の削減	目標達成	1. 従来活動の継続	対2011年の削減 -2%
紙資源	2011年目標全社で20%削減(2000年補正BM比) 実績は事業拡大を加味し、25%の削減	目標達成	1. 従来活動の継続 2. 文書・記録類の電子ファイリング化の推進 3. 営業部門のiPad利用による印刷物使用の削減を試行	対2011年の削減 -8%
廃棄物	・ 2011年目標全社で20%削減(2000年補正BM比)、実績は事業規模拡大を加味し、20%の削減 ・ リサイクル率95%の目標を達成	未達成	1. 従来活動の継続 2. QMS活動と連動した取り組み(品質クレームを起因とした廃棄物の削減) 3. 廃棄物の分別方法の再検討及び従業員の啓発活動の見直し	廃棄物 対2011年の削減 -16% リサイクル率95%
持続可能な原料を配慮した商品開発	16製品中、15製品がトータル・カーボンバランス60%以上を達成	目標達成	1. カーボンバランスの指標の導入及びバランス率60%の確保 2. OECD法に準拠した生分解性60%以上	カーボンバランス 60%以上の確保
事故・緊急事態対応	各事業所で「事故・緊急事態」を再評価し、地震・火災・液漏洩を想定した対応訓練や車輦事故削減の取組を実施した	目標達成	1. 各事業所の事故・緊急時の訓練や車輦削減の取組を実施した際にレビューを行い、更なる予防処置を講じることが必要 2. さらなる各事業所の危険因子の抽出と対策を環境マネジメントシステムに反映させる	年1回以上の防災訓練の実施 事故緊急事態の再検討と対応策の検討
プラスの環境側面の活動	全社・各部門において「プラスの環境側面」を認識し実行活動を強化した ボランティア休暇制度の活用による、さらなる環境活動を実施した	目標達成	「サラヤ全社員」のさらなる意識向上が必要	実行活動の強化
生物多様性に関する環境側面の活動	持続可能な企業活動の構築 生物多様性に関する教育訓練を年3回実施した	目標達成	自部署の業務で生物多様性に関する環境側面を特定し、環境保全活動を実施する。	生物多様性に関する環境側面の活動の実施
RSPO認証関連製品に関する活動	サプライチェーンにおけるRSPO認証維持活動とRSPO認証商品の認知度向上及び定着化(パーム油・パーム核油由来原料を含むサラヤ製品の調査と各製品の含有量を把握した)	目標達成	RSPO認証商品の維持管理及びアイテム拡大に関する手順の構築 認証油への切替を進める	2015年までにパーム油、パーム核油をRSPO認証油に切り換える

2011年実績



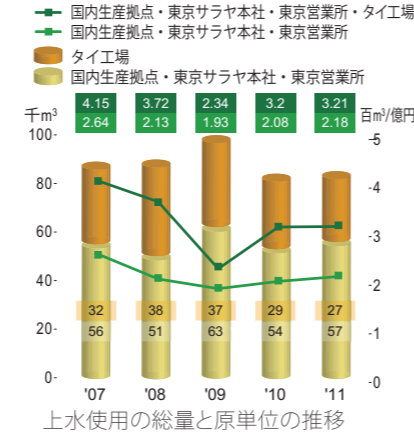
電力使用の総量と原単位の推移

燃料



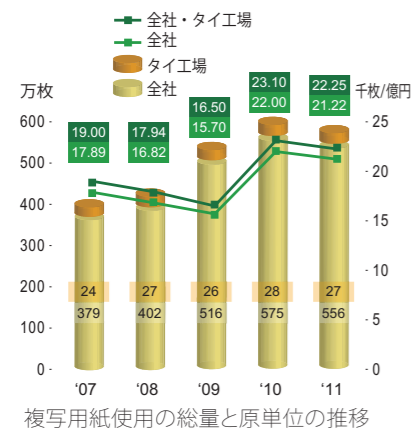
燃料使用の総量と原単位の推移

上水



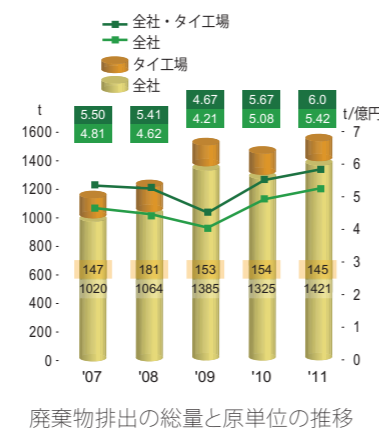
上水使用の総量と原単位の推移

紙資源



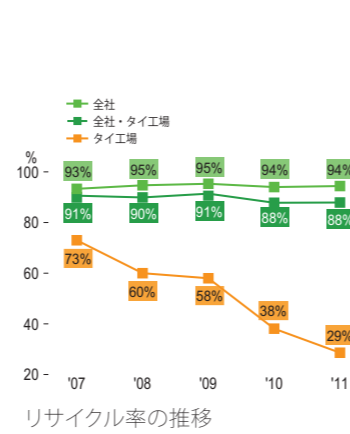
複写用紙使用の総量と原単位の推移

廃棄物



廃棄物排出の総量と原単位の推移

リサイクル



リサイクル率の推移

省エネルギー

・モダリティの推進

サラヤでは、大阪工場から東京物流センターへの商品輸送では100%、伊賀工場から同センターへは、ほとんど(お客様への直送分以外)の輸送に鉄道を利用しています。

2008年7月18日に、国土交通省と(社)鉄道貨物協会よりエコレールマークの表示を認められる企業としての認定を受けました。



・エアコン温度の設定

クールビズ、ウォームビズを実施してエアコン温度の設定による省エネを実施しています。また、退社後や休日などのプライベートでもエアコンの設定温度など省エネを呼びかけています。

クールビズ、ウォームビズ実施状況

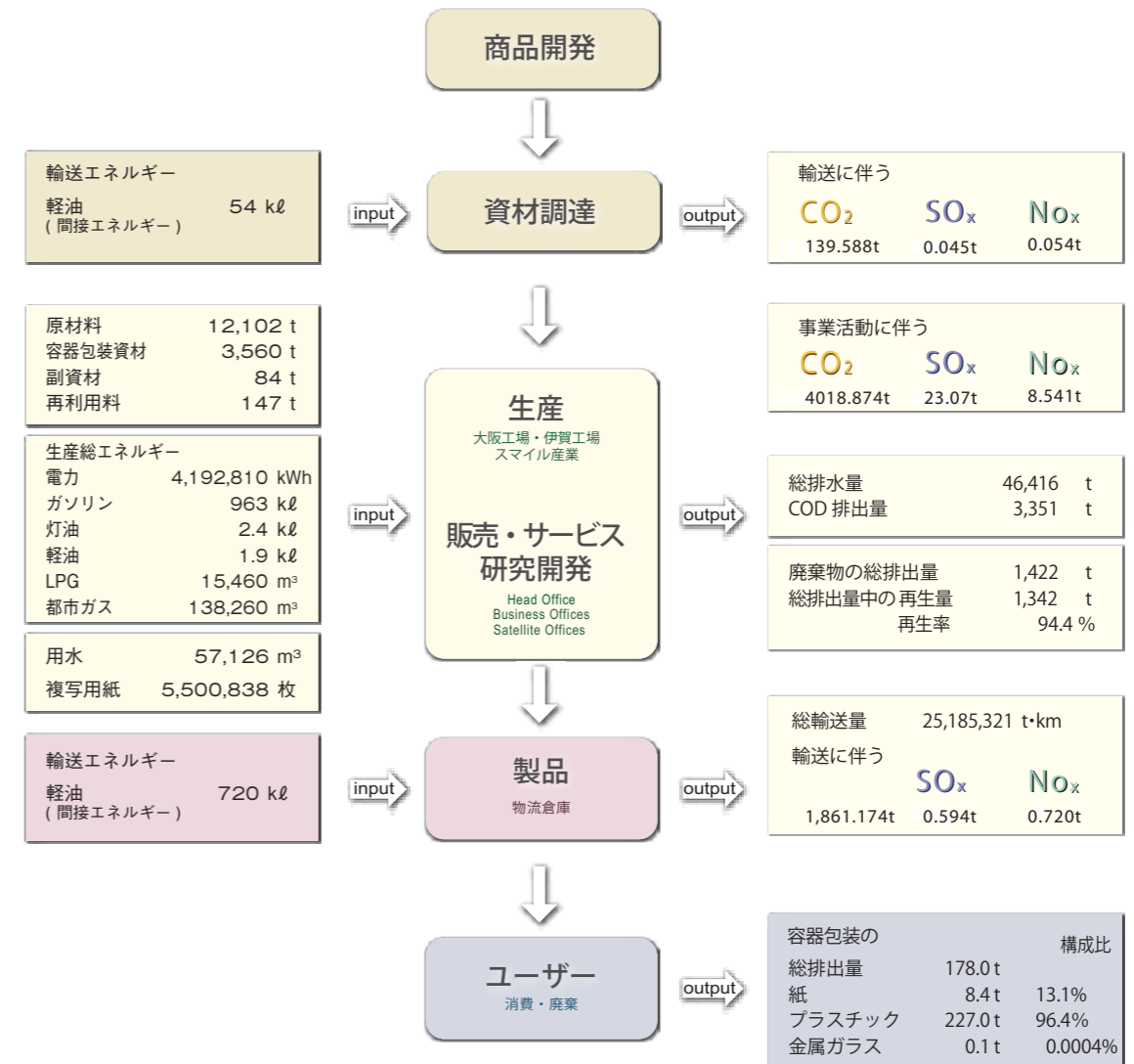
	クールビズ	ウォームビズ
開始	2011年6/1	2011年12/1
終了	2011年9/30	2012年3/31
室温	28℃	20℃

・認証排出削減事業者に登録

大阪工場では、ボイラーの交換(2009年)による温室効果ガス(CO₂)の削減量分をクレジット化し、排出権として売ることができるよう2012年に「国内クレジット制度」排出事業者の承認を受けました。



2011年のマテリアルフローと温室効果ガスの排出量



クリーン・エネルギーの利用

伊賀工場製造棟のソーラーパネル(10kWh)に加え、2010年10月には道路を挟んだ向いの新設の管理棟屋上に多結晶形の太陽光発電パネル(215.0Wh)を480枚設置しました。103.2kWhの出力となります。また、これは2011年2月にグリーン電力発電設備認定を受けました。CO₂排出削減による環境価値は、環境省に納めます。



伊賀工場倉庫のソーラーパネル

温室効果ガス排出量

排出した温室効果ガスを、環境省・経済産業省の『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(ver3.3)』をもとに算出しました。なお、パーフルオロカーボン(PFC)と6フッ化硫黄(SF₆)は排出量ゼロです。

	CO ₂	CH ₄	N ₂ O	Hydro Fluoro Carbon HFC				
地球温暖化指数:1 (GWP:Global Warming Potential) GWP:21 CO ₂ 換算 GWP:310 CO ₂ 換算 GWP:1,300 CO ₂ 換算								
直接	2010	4,229t	17.8t	374t	1.84t	570t	0t	0t
	2011	4,019t	0t	0t	8.541t	6,247t	0t	0t
間接	2010	2,133t	7.1t	149t	0.03t	9t	0.059t	2,368t
	2011	2,001t	7.9t	166t	0.77t	239t	0.158t	205t
計	2010	6,362t	24.9t	523t	1.87t	579t	0.059t	754t
	2011	6,020t	7.9t	166t	9.311t	2,887t	0.158t	205t
		2010 CO ₂ 換算						8,218t
		2011 CO ₂ 換算						9,278t

6. サラヤの商品開発

創業者は先祖から山を受け継ぎ、代々林業を営んできた生家で、生物多様性豊かな熊野の自然に抱かれ、多感な成長期を過ごしました。その自然観や生活観は商品開発のバックボーンとなり、今も自然派のサラヤの「ミーム」[※]として受け継がれています。

※：生物学者リチャード・ドーキンスが、著書「利己的な遺伝子」の中で作り出した言葉で、ミームの心理学的定義は「文化の遺伝単位であり、遺伝子のようなものである。」と著している。

ソーシャルビジネスとしての衛生

創業者の更家章太が、熊野から大阪に出て来て、当社を創業した1952年当時、自身がよく大阪駅の高架下で目にした悲しい光景がありました。それはムシロで覆われた遺体でしたが、空襲や飢餓で亡くなったのではなく、赤痢などの伝染病で亡くなったものでした。その年の赤痢患者発生数は11万1千7百9人に昇り、その中に含まれる人々です。それが、当時も今も変わらず衛生の基本である手洗いの事業を起業したきっかけとなりました。いわゆるソーシャルビジネスのはじまりです。

当時は、石鹼液を製造できる脂肪酸は、オリーブ油かヤシ油(ココナツ)由来のものしか見当たらず、その頃の日本ではあまり食用には使われなかったヤシ油を原料にしています。固形石鹼が集団で使用する産業衛生に向かない理由は様々ありますが、交差汚染を防ぐための衛生上の必然的選択です。

創業以来ヤシ油を主要原料にして来ましたが、原料コストの高騰により、1984年12月よりヤシノミ洗剤の一部原料にパーム核油由来の原料を使用しています。

自然派のサラヤのロングラン商品

衛生的なしっかりした手洗いができ、手肌にやさしい石鹼液は、便利な石鹼液容器とともに、かつての基幹産業であった紡績工場、そして鉄鋼などの重厚長大産業工場の手洗いや食品衛生へと拡がってゆきました。これは「シャボネット石鹼液」としてリニューアルされ、1959年頃より官公庁や学校の手洗いへと普及し、さらに学校給食の食品衛生へと拡がりました。60年後の今も公共施設の手洗いやスーパーのバックヤードなど全国でご愛用いただいています。

食品衛生の手洗いや、同じくヤシ油からつくった食器洗いや用洗剤、ヤシノミ洗剤(サラヤニューSSとして1971年発売、1979年にリニューアル)を発売いたしました。業務用ヤシノミ洗剤から1972年にご家庭用のヤシノミ洗剤を一般流通で発売しました。40年以上、ご愛用いただいています。

ゾウさんにこんなに迷惑かけているとは…

生物多様性保全の取り組みは、あるTV番組のインタビューからはじまりました。手肌にやさしく、JIS法で生分解度99%(OECD法60%)以上のヤシノミ洗剤やシャボネット石鹼液は日本の河川にはやさしい商品でしたが、原料供給地ではアブラヤシプランテーションの拡大が野生のボルネオゾウの棲息地の熱帯雨林を奪っていました。

この事実をどう思いますかと社長の更家悠介が問われたのです。「ゾウさんにこんなに迷惑かけているとは知りませんでした。」と答えたのが2004年7月、翌月から活動は始まっています。調査員の中西宣夫を採用し、坪内俊憲氏や霊長類学博



ディスペンサーと石鹼液



昭和30年代、当社の石鹼液とディスペンサー



2005年1月、サラヤがサバ州野生生物局を支援し、参加した最初の活動。捕獲後治療中のボルネオゾウ。

士イザベル女史(P15参照)やマーク氏と知り合い、ボルネオサバ州のキナバタンガン川の両岸の熱帯雨林を保護するという「緑の回廊計画」を知りました。年末にはRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に入会、翌年早々に更家はマレーシアのクアラルンプールに飛び、RSPOの総会に参加、「緑の回廊計画」の必要性をプランテーション経営者に訴えました。

そして、ヤシノミ洗剤シリーズ商品の売上げ1%でボルネオ保全トラストを支援する「ボルネオはあなたが守るキャンペーン」(次ページに詳細)のコース・ブランドへと展開します。

持続可能性のためのベスト・プラクティス

ボルネオ島は、本来広大な原生林に先住民の小さな村が点在する人口密度の低い場所でした。昔はゴム園の拡大とともにインドから、1970年頃からはパーム・プランテーションの拡大とともにインドネシアから労働者が大量に入植しています。

先住民から熱帯雨林や川からの生活資源をパーム・プランテーションが奪い、自然環境から生活の糧を得て暮らしていた人々の生活を困窮させています。プランテーションによって苦境にあるのは、野生生物だけではないのです。またパーム・プランテーションでは、家族で収穫や農薬の注入作業など過酷な労働に従事することが多く、特に奥地のプランテーションではこういうケースが多くなっています。

サラヤでは、サプライチェーンにおいて不当な搾取によって生産された原料を使わないよう、また人権や安全が守られた環境で生産された原料を使用するためにベスト・プラクティスを実践しています。具体的にはRSPO認証油への切り替えとパーム核油については、台帳方式のRSPO認証(グリーンパーム認証)パーム核油に切り替えることです。

ヤシノミ洗剤の原料である高級アルコールは、2011年よりグリーンパーム認証パーム核油由来の原料に切り替え、2012年4月よりアラウなどの石けん原料もグリーンパーム認証油に切り替えを完了しています。グリーンパーム認証油は、持続可能なパーム油の生産・流通に寄与する原料で、適正な労働環境や生物多様性保全が守られて製造された原料です。(p.18に詳細)

原材料として販売するSOFORO

サラヤが製造した高品質の製品は、基本的に自社ブランドとして販売してきました。しかし、2012年当社が決断したのは、セグリゲーションのRSPO認証油と糖類から酵母の発酵によって得られるバイオサーファクタント(天然界面活性剤)ソホロリピッドを「SOFORO」という商品名で、他社や他ブランドの洗浄剤や化粧品などの配合原料として販売することです。

微量ですぐれた洗浄力のあるSOFOROは、最終製品として流通するより、世界中のメーカーで商品に配合され、流通する方がエコロジカル・フットプリントが小さくなります。原料生産から、最終分解までライフサイクル全体で環境負荷の小さい洗浄剤が日本全国や世界で広くご活用いただけるように、原料としての販売を開始いたしました。

SOFORO(ソホロリピッド)の特長

1. 高生分解性(石けん同等の易生分解性で石けんカスのようなヘドロが出ない)
2. 食品レベルの安全性(醤油や味噌と同じ酵母による発酵で生産)
3. 洗浄力が高い(石油系合成洗剤同等かそれ以上)
4. すすぎ性が高く、水の節約に貢献(配合するだけでも洗浄剤全体のすすぎ性が向上する)
5. 起泡性を調整することができる(ソホロリピッドには起泡性の異なる酸型とラクトン型の2種類があり、このバランスを調整できる)
6. 環境負荷の高い消泡剤配合の必要がない(5の特長によりSOFOROそのものを低起泡性にすることができる。)
7. けい皮吸収剤として機能する(有効成分を分子集合体に取り込み、角質細胞間の隙間に入り、有効成分を放出する)
8. 生産地の環境、生物多様性や労働者の人権に配慮して製造されたパーム油を原料にしている。(セグリゲーションのRSPO認証油を使用)

以上の特長から洗浄剤、化粧品(既に多用されています)としての用途はもとより、安全性の観点から、医薬品、食品までの用途や石油系に負けない強力な界面活性力があることから工業用の用途も考えられます。



コース・ブランド



2007年5月よりの“ボルネオはあなたが守るキャンペーン”は6年目、“100万人の手洗いプロジェクト”は3年目に入りました。途上国の妊産婦を守るホワイトリボンも2年目に入ります。

ボルネオはあなたが守る!キャンペーン

サラヤは、ボルネオの保全活動を機に、ヤシノミ洗剤シリーズをコース・ブランドとしました。ヤシノミ洗剤シリーズ商品(業務用も含む)をお買い上げいただくと、メーカー出荷額の1%にあたる金額がボルネオ保全トラスト(以下BCT)に送金され、サバ州の野生生物保護活動や緑の回廊計画を進めるために使われています。“ボルネオはあなたが守る!キャンペーン”は、キャンペーンといっても5年に渡って継続しているもので、RSPO認証油の使用と平行して進めています。

具体的には、この度の震災に際して協議の結果、2010年の5月分からのBCTの支援金の一部をBCTを通して「東北関東大震災」の支援金にあてています。

緑の回廊計画

スタートは、サラヤ1社だけでしたが、「恩返しプロジェクト」など今では大手企業も計画を支援しています。サラヤの下表の12.3haに加えて、13.7haの保護地があり、2012年5月時点で、合計28.3haとなっています。最終目標の2万haは遠いですが、手続き中の保護地もいくつかあり、着々と保護地も支援の輪も増え続けています。“ボルネオはあなたが守る!キャンペーン”では、子ゾウや雌ゾウを一時的に収容するレスキューセンターへの支援(p.37参照)もしています。

BCTとBCTジャパンの「緑の回廊」保護地取得状況

命名権購入者	名称	登記日	面積(約)
サラヤ	サラヤの森 第1号地	2009/5/28	2.2ha
	サラヤの森 第2号地	2010/1/8	4.0ha
	サラヤの森 第3号地	2010/3/8	2.0ha
	サラヤの森 第4号地	2011/6/21	2.1ha
ベストサニタイザーズ社	ベストサニタイザーズの森	2009/9/11	2.0ha
サラヤ関連計			12.3ha
その他			16.0ha
計			28.3ha

その他支援

ウガンダ「100万人の手洗いプロジェクト」(p.10参照)として、シャボネットやウォッシュボンの売上げの一部でユニセフの手洗い普及運動を支援しています。「ホワイトリボン」に協賛して売上げの一部を寄付している「ラクトフェリンラボ」シリーズ商品など多数のコース・ブランドがあります。



ヤシノミ洗剤の売上*の1%がボルネオ保全トラストに使われます。
*メーカー出荷額



ヤシノミ洗剤

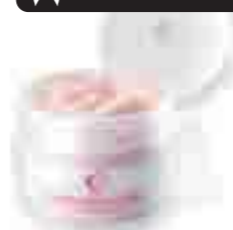
ココパーム



ハッピーエレファント



シャボグリーン



ラクトフェリンラボ

ロハスデザイン大賞受賞 コト部門 「100万人の手洗いプロジェクト」

対象製品のメーカー出荷額1%をユニセフに寄付し、アフリカ・ウガンダで「石けんを使った正しい手洗い」の啓発と普及を支援します。石けんを使って正しく手を洗うことで下痢性疾患や肺炎を予防し、ウガンダの100万人もの子どもたちの命を守るサラヤの活動がロハスデザインコト部門大賞を受賞。



カーボン・バランス

持続可能性へ、より高い目標をめざします。全社ではカーボンバランス60%以上の高水準を、個々の商品においてはOECD法に基づいた60%以上の高生分解度の処方を目指します。

生分解度の測定 OECD法

28日以内に生分解される比率を%で表します。60%以上であれば易生分解性、つまり最終的にすべてがCO₂と水に分解されることを示します。

PRTR対象原料回避から「カーボン・バランス」へ

2009年までは当社の環境マネジメントシステム(以下EMS)の自主的な取り組みとしてPRTR(Pollutant Release and Transfer Register)対象原料の回避を目標に掲げていました。

ここ最近2度の化学物質排出把握管理促進法の改正においてPRTR対象物質が変更された結果、EMSのPRTR対象物質の回避という活動目標は、より高い生分解度の洗浄剤を商品化するという当社のコンセプトと矛盾することになります。

たとえば「ポリオキシエチレンアルキルエーテル(以下AE)」は、代表的な代替物質として「ポリオキシアルキレンアルキルエーテル」が知られていますが、これはAEより生分解度が低いので、これで代替すると製品自体も環境負荷が大きくなります(後に詳細を説明)。また、新たにPRTRに指定された「ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩(AES)」の代替物質は今のところ存在していません。

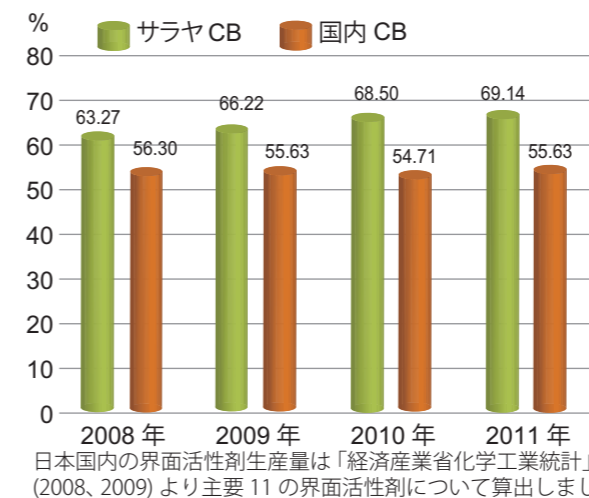
AES(ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩)のカーボンバランスを計算してみました。

$$C_{12}H_{25}O-(CH_2CH_2O)_3-SO_3M$$

パーム核油由来 化石由来
ラウリルエーテル ポリオキシエチレン (塩)

カーボンバランス: $12 \div (2 \times 3 + 12) \times 100 = 66.7\%$

サラヤ商品の界面活性剤生産量カーボンバランスの推移



カーボンバランスとは

そこで当社が現時点で段階的に、独自に考え出した指標が界面活性剤の炭素の非化石(植物)由来と化石(石油)由来の比率を「カーボンバランス(以下CB)」とするものです。非化石由来と化石由来の全炭素数の合計を分母に非化石由来の比率を%で算出します。それぞれの商品は、いくつかの界面活性剤がブレンドされているので、その混合比率で洗浄剤商品のCBを算出し、また、生産量全体で1年毎のCBを算出し、60%以上の維持をEMSの活動目標に設定しました。2011年に日本で生産された界面活性剤は約952,742tで、そのうち主要な11種の合計約906,582tのCBは54.71%と算出されました。

PRTR対象物質であるAEの界面活性剤AのCBは約40%であるのに対し、代替物質の界面活性剤Bは約20%、界面活性剤Cは約12%と半分以下になります。CBが低いと相対的に生分解度が低くなり、それは当社のデータでも確認されています。

一般的に界面活性剤は、非化石由来の比率の多いものほど生分解性が良くなります。PRTR制度とは環境中への放出量を把握するための届出の制度なので、当社には生分解性の悪い代替物質に代えるという選択肢はありません。

石けんではなく、なぜ洗剤か?

石けんのCBは100%ですが、それだけで、石けんが洗剤より環境負荷が小さいと結論づけることは出来ません。洗浄力が洗剤ほど強くないので使用する量がかなり増えます。また、生分解度からみても、たとえばAESならOECD法で60%以上ですが、これは最終的には完全にCO₂と水に分解されることを意味します。またヘドロになる石けんカスもできません。

石けんの分解より時間は少しかかりますが、化石由来の部分も分解され、CO₂と水に変わり、循環するということの意味しています。CO₂排出の面だけから判断しても、輸送や製造にエネルギーとして化石燃料は使われるので、たくさん使う石けん、少して洗える洗剤、どちらも決め難いのが事実です。用途や使用条件で使い分けると、また、消費者の方々の嗜好に任せても良いのです。

今後当社では、総合的な環境影響が客観的に判断できるような指標を取り入れるよう検討します。たとえばカーボンフットプリントや生物多様性指標などを検討して行きます。

7.グリーン・ビジネス関連会社

職場や公共施設、ご家庭をより持続可能にする新しい技術があります。照明の省エネ化から改築や太陽光発電装置、廃水処理までトータルにサラヤがご提案いたします。

持続可能な建築にリフォーム



バリアフリー・リフォーム

安全で働きやすいオフィスに。バリアフリーとユニバーサル・デザインを合わせた建築をご提案します。



オフィス・工場・住宅のリフォーム

太陽光発電パネルの設置、バリアフリー、雨水リサイクル、耐震などに対応したリフォームや建替えなどのお手伝いをいたします。また、「高気密化」「壁面緑化」で省エネルギーを、内装に木材や珪藻土を効果的に使って快適さをもたらすリフォームを完成します。

壁面緑化

ヒートアイランド現象に代表される都市環境の問題対策のひとつ、「壁面緑化」が注目されています。在来種の植栽で都市の生物多様性にも貢献します。



太陽光発電

公共施設・産業用からご家庭まで、太陽光発電システムのご相談・調査・設計・施工・技術指導まですべて承ります。



耐震リフォーム

地震のときの崩壊を防ぐ耐震性の向上や被害を小さくする補強をします。



水処理装置 アクアハートエアレーション

浄化の『浄』という文字は「水が争う」と書きます。アクアハートエアレーションの内部で水と空気を激しく衝突させて混合し、溶存酸素濃度を高め、自然の持つ浄化能力を最大限に引き出すことができます。



水処理

世界の水をキレイに
アクアワールド株式会社

水処理施設をトータルにご提案

1. 上下水道処理設備関連機器の設計・製作・据付
2. 廃水処理システムの設計・施工
3. YMブロック(集水装置)の製造・据付・販売

水は、我々の生命や健康、日々の生活に直結するだけではなく、農業・工業においても、その根幹に関わります。「世界の水をきれいに」の理念のもと、水不足や水質汚染の問題解決に貢献いたします。

食品リサイクル



食品廃棄物の炭化による再利用

食品取扱い施設から排出される食品廃棄物等の食品循環資源などを「炭」にリサイクルし、その「炭」を燃料等エネルギー分野などで活用していただいています。



省エネルギー



トナーリサイクル事業、無電極照明 LED 照明等エコ照明のご提供
http://www.o-japan.jp/

照明設備

オフィスや工場・倉庫の照明を、LED 電球、無電極照明などに替えることで省エネルギーはもとより、長寿命で交換の手間が省ける、低発熱、など様々なメリットがあります。

LED 照明

- 消費電力は 白熱灯の約 1/10
- 寿命は 蛍光灯の約 5 倍
- 交換頻度と廃棄物量は 蛍光灯の約 1/5
- 紫外線をほとんど含まないから 虫が集まらない 展示物などが劣化しにくい



無電極照明

- 消費電力は 白熱灯の約 1/2
- 低発熱 80 ~ 90℃
- 寿命は 16 年間取替えなし (1日10時間点灯時)
- 少ない水銀含有量 水銀灯に比べて約 1/5 寿命が 5 倍、含有量が 1/5 なので、廃棄水銀量 1/25



LED 蛍光灯

- 消費電力は 蛍光灯の約 47%
- 寿命は 16 年間 (60,000 時間) 取替えなし、(1日10時間の点灯)
- 器具の買換えなし 蛍光灯を LED 蛍光灯に付替えるだけ 別置き安定機が不要の上、1.5 倍の耐久性
- 明るく目にソフト 明るさ約 85lm/w、放射角度 210°

プリンタのトナー・カートリッジの再充填

レーザー・プリンタや輪転機、インクジェットプリンタのトナーやインクをカートリッジに再充填し、リサイクルするシステムです。現在、日本で月間数百万個に及ぶと考えられている使用済みカートリッジですが、これらを回収し有効活用することで、コスト削減と廃棄物削減の双方に貢献できます。

リサイクルトナー・カートリッジ

回収したカートリッジは工場では分解、修理、充填、検品を経て再利用されます。



8.環境コミュニケーション

企業のお得意様やお客様、消費者の方々、従業員、会社のご近所様、マスコミ、お取引先、さらには原料供給地のボルネオ、すべてのステークホルダーとの環境コミュニケーションを進めています。



第5回ボルネオ調査隊

2007年にスタートした消費者選抜のボルネオ調査隊の第5回のメンバーの恒例の記念撮影です。2011年度は9月16～20日に実施いたしました。詳しくはWEBをご覧ください。http://www.yashinomi.jp/borneo/report/第6回は2012年9月18～22日に実施予定。

例年、4～7月にかけてWEBで応募を実施(http://www.yashinomi.jp/borneo/campaign.html)、8月メンバー決定、9月ツアーの実施という流れです。食品や石けん・洗剤などを、私たちは日常何気なく消費していますが、そのスタート地点をひと度訪れてみると…、WEBで各参加者のコメントをご覧ください。



創立60周年記念(東京会場)講演会

2012年にサラヤは創立60周年を迎えました。大阪、東京、福岡、名古屋、仙台、北海道で創立60周年記念セレモニーを開催いたしました。

5月17日のホテルオークラでの東京開催では、セレモニーに先立ち、午前11時より、生物学者の福岡伸一先生に、「動的平衡 - 生命の豊かさを考える -」というテーマでのご講演をいただきました。満席の300名余りにご来場いただきました。

遺伝子レベルの生命の豊かさ、強さはマクロの生態系にも繋がる真実であり、私どもの生物多様性保全の活動にとっても、大きな示唆となるお話でした。

国連 CBD 機関誌にサラヤのコミットメント掲載

国連 CBD(生物多様性条約会議)の機関誌 2011年11月号森林特集にサラヤのトップコミットメントが掲載されました。CBD ホームページ中のビジネスサイトから PDF データをダウンロードできます。http://www.cbd.int/business/interactive-resources/newsletters



B&B イニシアティブの書籍が発刊

『グッドカンパニーの事例に学ぶ - 生物多様性へのビジネスアプローチ -』

2011年12月に経済法令研究会より発行。これは B&B Japan(ビジネスと生物多様性イニシアティブ 'Biodiversity in Good Company')への2008年署名から2010年名古屋で開催された生物多様性条約会議 COP10までの日本の参加企業のサラヤを含む10社に加え、フォルクスワーゲンなどドイツ4社、ブラジル1社の活動がまとめられています。さらに、同イニシアティブ理事のエドガー・エンドルカイトス氏(p.7参考)による序章、その他同イニシアティブについての紹介などが収録されています。



9.中性洗剤漏洩事故について

最高経営責任者よりのご報告

2012年1月20日早朝、当社大阪工場の中性洗剤(家庭用食器洗剤:商品名ヤシノミ洗剤)のタンクより洗剤が漏洩し、地区排水路を経由し大和川まで流出するという事故が発生いたしました。発覚後、工場内排水溝に溜まる洗剤を社員が必死で回収すると共に、大型バキュームローリー車を至急手配し工場外の地区排水路の3箇所(図1参照)で漏洩洗剤まじりの排水を170t(表1参照)と大量に回収いたしました。しかしながら、工場外への中性洗剤の漏洩量は、約8tであり地区排水路から上記の大量の排水の回収にもかかわらず8tの漏洩洗剤のうちいくばくかが大和川まで流出し、当日は大和川で漏洩排水流入箇所付近から4～5km下流まで洗剤の大量の泡立ちのため、河川左岸が真っ白になると言う事態まで引き起こしてしまいました。

直接ご迷惑をおかけしました地区住民の皆様方、大和川の環境保護活動を実施されている皆様方、大和川を管理されておられる担当行政当局の皆様方はもとより当社商品をご愛用下さっている企業のお客様や消費者の皆様方へもこの場を借りまして、改めて深くお詫び申し上げます。

この事故を教訓に、今後再度同様の事故を引き起こすことのないよう、リスク管理を強化した工場管理をとり進めておりますのでご理解賜りたいと存じます。

尚、事故詳細ならびに環境への影響評価等の情報開示実施状況を表2にまとめました。(表2参照)

サラヤ株式会社
代表取締役 更家悠介



表1:漏洩回収状況

日	時	回収量	
A社	19:00	12.0t	
	19:30	12.0t	
	20:00	14.5t	
	20:30	12.0t	
	21:00	12.0t	
	21:30	12.0t	
	22:00	12.0t	
	22:30	22.0t	
	B社	21:00	9.0t
		21:30	12.0t
22:30		10.2t	
09:00		10.0t	
計	12:00	10.0t	
	15:00	10.0t	
計		169.7t	

図1:サラヤ(株)大阪工場から大和川流入点まで、3ヶ所で排水溝(排水路)の漏洩した中性洗剤を回収した。

サラヤ株式会社大阪工場よりのご報告

この度、サラヤ大阪工場の管理不足により「ヤシノミ洗剤」製品の大量漏洩事故を起こし、工場外まで漏洩させた結果、大阪地区一級河川の大和川までの流出に到りました。近隣住民の皆様方は勿論のこと、下流域の河川利用の皆様方、並びに監督官庁各位の皆様方にも多大のご迷惑をおかけ致しましたことを心よりお詫び申し上げます。弊社ホームページのニュースでは、事故状況と環境影響につきまして広報させて頂いておりますが、ここでは、1月20日の事故発生以来、可能な限りの漏洩洗剤の回収並びに地区排水路の原状回復の活動につきましてご報告申し上げます。

事故発生前日は、20時まで生産を行っており最後の製造課員帰宅の22時には異常がなかったことが確認されております。漏洩事故は、当日6時に出勤した工場食堂の委託業者社長により発見され、同時刻に出勤していた資材課社員を経て、製造課社員に電話連絡されました。6時50分製造課社員が現場に到着し、現場調査結果、漏洩箇所が特定されました。すぐに漏洩していたヤシノミ洗剤の製品タンク(40t)

表2 中性洗剤漏洩事故についてのお詫びと情報開示

WEBでのリリース	1/20	第1報	「サラヤ株式会社大阪工場の中性洗剤の漏洩事故について」 http://www.saraya.com/news/2012/
	1/24	第2報	
	1/30	第3報	
	3/13	第4報	
お客様へのご報告	1/20	第1報	「サラヤ株式会社大阪工場の中性洗剤の漏洩事故についてのご報告」 社長 更家悠介よりのお詫びとご説明文書を営業よりお客様にご提出
	1/24	第2報	
	1/30	第3報	



の元弁を閉止し、同時に工場内排水溝と外部排水路との間の遮断弁を下ろし、工場外部への漏洩を止めました。

7時20分には連絡を受け次々に出勤してきた社員により、場内に流出していた洗剤の回収作業に取り掛かりました。場外排水路については、工場北側直近の排水路にも土嚢を設置しそれ以上の拡散防止処置を講じました。工場内の排水溝の容量は、場外への遮断弁を閉止すると合計で約25m³(25t)あります。

漏洩液は、水中ポンプ、液を回収出来る水切りやチリトリまで様々な用具を駆使して回収しました。工場直近の場外排水路の土嚢でせき止めた部分の排水は主に水中ポンプで回収いたしました。

この場内及び工場外直近の土嚢閉止の排水路からの漏洩洗剤の回収量は、約13t(1.1tコンテナー11基、200kg・ドラム3本)となりました。その後の調査結果から漏洩前のタンクの貯蔵量は27t漏洩後の貯蔵量が6tであることよりタンクからの流出量は、21tと判明いたしました。従いまして工場から、地区排水路への漏洩量は、約8tと推測されました。

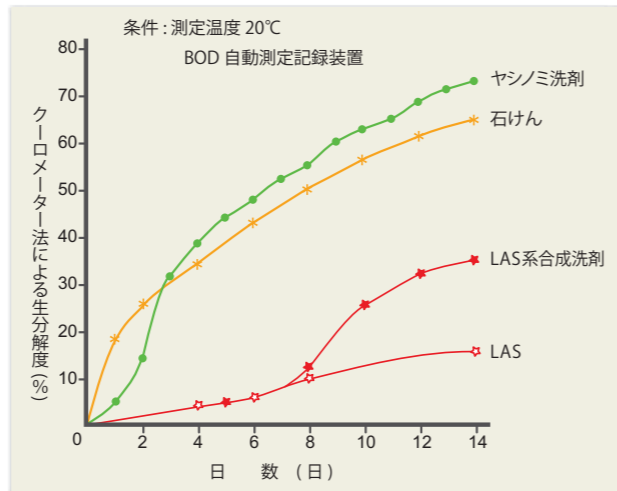
上述の工場内外の漏洩液の回収に掛かると同時に、関係監督官庁にも直ちに緊急電話にて、漏洩事故発生のご連絡を申し上げます。関係官庁対応、マスコミ対応等に追われている中で、11時前後のほぼ同時時間帯に、柏原市環境保全課と大和川河川事務所より、工場から大和川合流までの地区排水路の漏洩液の回収、飛散防止の為の泡回収、魚の死骸回収に全力を注ぐようにとのご指導をいただきました。

柏原市役所様と弊社の準備したバキューム車にて、排水路から漏洩洗剤が含まれる170tの排水の回収を実施し、同時に従業員によって、泡及び魚の死骸を回収する部隊(16名)を編成し22時30分まで作業を行いました。

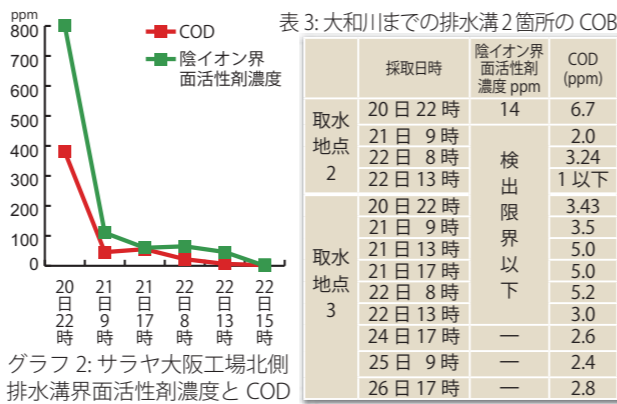
柏原市役所・経済環境部・環境保全課の皆様には、当日不慣れな我々の先頭に立ちご指示をして頂きました。お世話になりました柏原市役所の皆様にはこの場を借りまして厚く御礼を申し上げます。また、夜間作業が円滑に進む様に発電機や投光機を快くお貸し頂きました地元企業の皆様方にもこちらよりお礼申し上げます。

様々な皆様方に支えられ事故当日の緊急対応をほぼ滞りなくこなすことが出来ました。また、事故発生翌日の21日も前日同様に平常の状況に回復する為の作業を総勢31名の社員で4箇所に分かれて作業を行いました。途中雨が強くなり、寒さも増し、排水路の水量が急激に増えると言う予想外の自然現象もございましたが、終日作業で17時30分ごろまでの作業となりました。

21日のお昼前には、柏原市・経済環境部・環境保全課のご担当者より、「大和川までの流出ルートの巡回の結果、浄化は進んでいるように見える」とのご連絡を頂き、外観上は原状回復が進んでいることを実感いたしました。3日目の22日も規模を縮小しつつ8名の監視部隊が現地に赴き、監



グラフ1: ヤシノミ洗剤の生分解度、石けんと合成洗剤との比較



グラフ2: サラヤ大阪工場北側排水溝界面活性剤濃度とCOD

BOD(biochemical oxygen demand)とは、水の汚れを測定する方法です。洗剤などの炭素を含む有機物がどれくらい含まれているかを、微生物がそれを食べるときにどれだけ酸素を消費したかで測る方法です。

COD(chemical oxygen demand)とは、こちらも同様に酸素の量を測りますが、過マンガン酸カリウムという薬品を使います。こちらは有機物と過マンガン酸カリウムという薬品が反応するときに使われる酸素を測る方法で、化学的酸素要求量といいます。



視を続行いたしました。

見た目には泡立ちもなく平常に戻っていると見えたが、原状回復の指標として、工場から大和川までの地区排水路3箇所(図1参照)にて、排水のサンプリングを定時に行い、COD濃度、陰イオン界面活性剤濃度測定を実施し、3日目の22日のお昼には全ての濃度が安定して基準値を下回っていることが確認されました。(グラフ2と表3参照)

4~7日目までは、定時監視活動に切替えましたが、変化は見られませんでした。このように関係官庁各位からのご指導を仰ぎながら精一杯の対応に努めました。改めて、大阪工場が今回引き起こした事故の重大さを痛感いたしております。事故後は、前述の回復作業に加え、ただちに事故原因究明とその対策の実行に取り掛かりました。

設備、管理の両面から原因究明を実施し、本事故対策はもとより類似の「漏洩事故」の防止対策は、即実行に移しました。また、この事故を教訓に「環境事故リスク」の評価の不十分さを思い知らされ、工場全員で改めて様々な観点からリスク評価を行い、多くの環境事故リスク要因の抽出を行いました。

事故リスク要因に対しては、可能なものから逐次対策実行に移しております。当然のことではございますが、二度とこのような事態を引き起こさないよう従業員一同、より一層気を引き締めて再発防止に努めていく所存でございます。

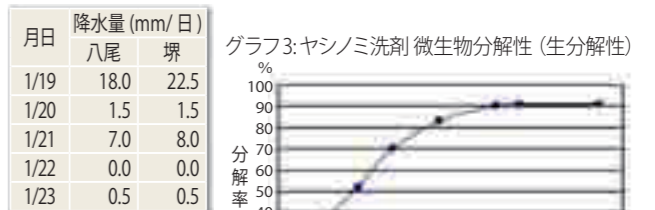
サラヤ大阪工場 工場長 富田 晋平
生産部 責任者 次長 宮武 浩一



図2: 当社大和川河口域調査地点
平成24年1月20日夜に St. A、St. I 地点で調査
平成24年1月21~23日に St. 1~4 の地点で調査

調査日	調査地点	調査層	pH	COD (mg/L)	陰イオン (mg/L)	非イオン (mg/L)
1/20 (金) 20:15~	St. A	表層	7.7	6.2	0.01	<0.05
	St. I	表層	7.4	7.2	0.01	<0.05
	St. 1	表層	7.9	3.8	<0.01	<0.05
1/21 (土) 13:15~	St. 2	表層	8.0	3.6	<0.01	<0.05
	St. 3	表層	7.9	3.0	<0.01	<0.05
	St. 4	表層	8.0	3.3	<0.01	<0.05
1/22 (日) 09:01~	St. 1	表層	7.3	6.8	<0.01	<0.05
	St. 2	表層	7.5	4.2	<0.01	<0.05
	St. 3	表層	7.7	4.3	<0.01	<0.05
1/23 (月) 09:01~	St. 4	表層	7.9	2.8	<0.01	<0.05
	St. 1	表層	7.9	3.4	<0.01	<0.05
	St. 2	表層	8.0	2.6	<0.01	<0.05
※参考データ	遠里小野橋		7.6~8.2	5.9~7.8mg/L	0.01~0.06mg/L	
	堺 7-3 区沖		7.9~8.5	2.0~5.2mg/L	<0.01~0.02mg/L	
	環境基準	海域 C 類型	7.0以上 8.3以下	8mg/L 以下		
定量下限値			—	0.5	0.01	0.005

※参考データ
近傍の過去の調査結果(2008年04月~2011年3月)



気象庁ホームページより

生分解性試験法 OECD301C 記載方法に準拠
試料名称: ヤシノミ製剤 (LOT NO.110624)
界面活性剤濃度 16%
公的機関(大阪市立工業研究所)によるヤシノミ洗剤「生分解性」試験結果(大工研報第2975号より引用)

10.社会貢献 — 非営利団体への支援

NPO 法人 ZERI ジャパン



資源とエネルギーを循環再利用し、廃棄物をゼロに近づけるゼロ・エミッション構想を出発点として、日本における環境教育の啓発と実践、産業クラスター（連環）の構築、会員企業への情報提供や技術指導などを行い、循環型社会を実現するために2001年に設立されたNPO法人です。

理事長を社長の更家悠介が務める他、資金・人材両面から支援し、事務局も東京サラヤ株式会社本社内に置いています。

「ブルーエコノミーに変えよう」～自然の見事な適応力を活用して、10年間で、100個のイノベーションで1億人の雇用をつくる～というシンポジウムを2012年6月27日 国連大学ウ・タント国際会議場で主催しました。ゼロ・エミッション構想の創始者でゼリ・ジャパン特別顧問のグンター・パウリ氏が講演しました。同氏は著書『ブルーエコノミーに変えよう』を日本他、世界各国で出版しています。



左から、更家悠介(サラヤ社長)、グンター・パウリ氏、国連大学ウ・タント国際会議場でのシンポジウム「ブルーエコノミーに変えよう」のパネル・ディスカッション

公益社団法人 日本 WHO 協会

本業の衛生の分野においても、非営利団体の支援をしています。社団法人日本 WHO 協会は、WHO 世界保健機関憲章の精神を広く普及徹底し、その事業目的達成のために設立され、世界中の人々と共に健康の増進と保護に取り組んでいる団体です。近年、元大阪市長の関淳一氏が理事長に就任し、活発な活動を再開しています。サラヤでは、各方面から活動を支援しています。主な活動は下記の通りです。

- ・第15回関西感染症セミナー「病棟常駐薬剤師の役割～抗菌薬への関わり～」(共催 2011年7月23日)
- ・市民健康講座「都市と健康」(共催 2011年9月29日)
- ・人的貢献推進セミナー「世界の子ども達(未来)へ、僕らができること」(共催 2011年12月3日)
- ・フォーラム「歯と健康 Oral Health for a Healthy Life」(2012年3月8日)
- ・第2回禁煙セミナー「たばこ対策、日本と世界の動向」(2012年5月31日)
- ・機関誌『目で見えるWHO』の発行
 - 第46号 特集「震災特集」
 - 第47号 特集「アフリカの健康・水・いのち」
 - 第48号 特集「子ども達・未来へ」
 - 第49号 特集「歯と健康」



(社)日本 WHO 協会はWHO憲章の精神を広く普及徹底し、その事業の目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の国民の健康増進に寄与することを目的に、40年余にわたって活動を続けています。(写真提供:日本ポリグル)

エコデザインネットワーク



エコデザインとは、モノづくり、マチづくり、地域環境づくりの立場から構想し、持続可能な社会の実現と発展に向けて活動する団体です。主な活動は、右の写真の「エコデザインフェア」(2012年1月26日)、テーマ「環境先進都市大阪を目指して～ライフスタイルの変革を!!～」などです。



ボルネオ保全トラスト (BCT)



Borneo Conservation Trust、2006年マレーシア サバ州より NGO として認可され、事務所をコタキナバルのサバ州野生生物局内に置き、設立されました。設立以前よりサラヤが大きく関与しています。

目的はキナバタンガン川沿岸の熱帯雨林を保護区にする「緑の回廊計画」の推進、そしてアブラヤシプランテーション開発で棲息に困窮しているボルネオゾウ、オランウータンを捕獲して、傷ついている場合は治療し、保護区に移動させる保護活動です。保護活動はサバ州野生生物局や WWF の活動を支援する形で取り組んでいます。

また、現地では、生物多様性保全の啓発活動に取り組んでいます。ヤシノミ洗剤シリーズなどの売り上げ1%で支援しています。http://www.borneotrust.com/

ボルネオ保全トラスト・ジャパン

BCT の活動を日本から支援するために設立されました。日本の動物園とのコラボレーションなど活発な活動をしています。サラヤなど企業の支援や、旭山動物園と SWD(サバ州野生生物局)の協力のもと、ボルネオで野生生物(ボルネオゾウ)のレスキュー・センター設立プロジェクトが進行中です。本誌2011年版に掲載した模型は、SWDの要望、現地の事情などを総合的に考え、旭山動物園関係者が新しく図面を引き直しました。

MPOC(マレーシアオイルパーム協会)からの支援金の1億5000万円、さらに SWD の道路建設予算が下りれば、SWD と BCT は本格的な BES (ボルネオエレファントサンクチュアリ) を建設する計画があるのですが、応急的に小規模な施設をまずつくることになりました。BCT ジャパンへの寄付がレスキューセンターや保護地の森の購入に当てられるよう、ヤシノミ洗剤シリーズ売り上げ1%で活動・運営を支援しています。事務所は東京サラヤ内。http://www.bctj.jp/



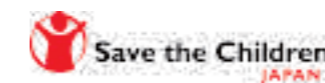
Borneo Conservation Trust事務所(コタキナバル マレーシア)にてレスキューセンターについてのミーティング



中西宣夫(サラヤ研究調査員)と坂東元氏(旭山動物園園長)、レスキューセンター建設地。

- 1.生物多様性に比較的影響が少ない。
 - 2.ボルネオゾウの移動ルートを遮らない。
 - 3.成獣の雄が近寄る可能性が少ない。
- 以上の条件からバドゥ・プティという村の近くの土地に決定。ゾウも通らない程ぬかるんでいて、人も歩きにくいところなので、まずサバ州による道路の整備が必要である。

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



エグランタイン・ジェブ女史は「人類の本当の敵は、洋の東西を問わず、貧困・不衛生・病気・救いようのない無知である」と確信し、セーブ・ザ・チルドレンの活動をはじめました。サラヤでは、少しでも世界の子どもの衛生環境が良くなるようにと願って、この活動に協賛しております。1986年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは設立されました。設立の際、弊社社長の更家悠介も深く関わっています。現在は、ウガンダなどのアフリカ、アジア諸国の教育や栄養改善、保健衛生などの援助を行っています。



Copyrights: Saraya Co., Ltd.

Copyrights: Saraya Co., Ltd.

11.お客様とサラヤ

日々電話やインターネットで直接寄せられるお問い合わせなど、営業担当者に直接伝えられるご要望や苦情を経営の示唆として、開発やサービスに活かせる仕組みをつくっています。また、被災されたお客様が、一日も早く事業再開していただけるように衛生面からのお手伝いをしております。昨年版に引続くその他の被災地支援もここにまとめております。

CRM 推進室

Customer Relationship Management の略で顧客を正確に知り、顧客の価値観を満足させ続けることによって顧客から必要とされる関係を構築し、持続することを目指します。サラヤでは、お客様や消費者の方々に情報を広くお伝えし、商品やサービスについてご理解いただけるよう Web などでも双方向のコミュニケーションの充実に努めております。

コールセンターやお客様事務センター、営業担当者に伝えられるご提案・ご要望やご意見・苦情などのお客様の声は CRM 推進室で内容を適切に把握し、経営層や開発部門、品質保証部門に貴重な経営への助言として、商品と当社サービスに反映させる仕組みを構築しております。

コールセンター

2003年6月の開設以来、コールセンターでは数多くのお問い合わせをいただいております。2011年には年間約4万件余りのコールをいただきました。

お客様からの様々なご意見、ご質問に迅速で適切なお答えができるように、度々いただくご質問などを想定して、Q&Aを作成し、迅速な対応を心掛けております。分かりやすく、充実したインフォメーションをご提供出来るよう、日々努力しております。

お客様事務センター

2006年、「お客様事務センター」を東京と大阪に開設いたしました。これは、当社製品をご利用いただいている企業のお客様に速やかな受注対応や納期回答、さらに当社営業担当者への迅速な取次ぎなどを強化し、全般的な事務サービス向上を目的としています。2011年は約21万件のコールをい

ただいております。特に商品・サービスに関する苦情とご提案につきましては徹底した対応ができるような体制を整えております。

苦情については、品質保証部門による原因調査結果、再発防止策の立案などを、苦情を寄せられたお客様にご報告させていただいております。お客様からのご提案についても、可能な限り情報の提供を行い、お応えしております。

また、商品のお届けに関するご質問につきましては、物流のスピード化に合わせて、迅速なご返答を差し上げるため、システムの構築を早急に進めてまいります。

営業訪問先でのお客様の声

当社は全国約500名の営業スタッフが、日々の営業訪問、衛生技術のお手伝い、機器メンテナンスなどの機会に直接いただく、ご意見やご提案、お問い合わせなどを大切な情報資産であると捉えております。

2004年より、お客様の声を専用データベースにおいて入力管理しており、2011年度は約3万6千件に上っております。お客様からのお声を元に経営層はじめ、営業、開発、品質保証の各部門と情報共有し、これらを課題として業務に取り込んでおります。今後もこの取り組みに邁進してまいります。

タイ洪水被災企業復興のお手伝い

2011年10月のタイ洪水で被災されたお客様に、当社の海外営業部門などからタイ被災地に直接赴き、現地の事業所・工場再開のための消毒を行う初期化の実地でのアドバイスや当社マニュアルのご説明をしています。

また、2011年11月2日と同16日に東京（虎ノ門 SQUARE）にて、渡航医学センター西新橋クリニックとの共催で「タイ

洪水被害における感染症対策セミナー」を開催し、渡航医学の専門医師による講演や企業担当者にご参画いただき、事前に募集した聴講者よりの質問事項を踏まえたパネルディスカッションなども行いました。約50社にご参加いただき、現地従業員の方々の安全確保と冠水への対策に関するご理解にお役立ていただきました。

震災後のお手伝い

サニテーション事業部を中心に営業部門の組織を横断する形で、津波や地震の被害を受けたお取引先の営業再開に向けて、作業場等を消毒処理し、初期化作業を実施するチームを編成しました。山形市内に設置したサテライトを基地に一週間単位で営業部員を派遣し、初期化作業を行いました。

2011年4月7日から5月19日までにお客様22店舗の初期化作業を実施いたしました。作業は6チーム、総勢59名が作業にあたりました。

また、この作業を担当する支援チームが寝泊りするための宿舎として、宮城県から車で一時間位の立地で、被災していない山形市内にサテライトを設置しました。最大10名が宿泊、自炊・洗濯などの生活設備を揃え、作業に必要な用具類、作業服や長靴などもストックし、初期化作業の拠点となる施設を約半年の間、設けました。

その他の震災関連

日本ユニセフ協会の要請により、瓦礫撤去作業にお役立ていただくため、防塵（防塵）マスクを10万枚（約550万円相当）を南相馬市教育委員会様に無償提供いたしました（2011年5月27日出荷）。2011年版に記載の当社商品無償提供の総額1億9,249万円に合算して1億9,799万円になりました。

小児がん治療中の子ども達とその家族のためのQOL（生活の質）の向上のためにNPO法人チャイルドケモハウスよりの呼びかけで、震災で在宅医療を余儀なくされている子どもと家族に衛生用品などを贈る「夢の病院からのお届けものプロジェクト」にサラヤのアルコール消毒液、手洗い石鹸液、マスクなどを提供いたしました。茨城県立こども病院経由で、福島から避難されて二重生活を送っていらっしゃるご家族20世帯が対象です。（2011年6月17日）

環境ブランド調査

日経BPが毎年行っている「環境ブランド調査」の中で、「環境考慮スコア(B)」は、商品を購入した経験のある人の中で、その企業の環境活動を考慮した人がどの程度いるかを示したスコアですが、サラヤが2011年1位に、2012年3位にランクされました。



「タイ洪水被害における感染症対策セミナー」(2011年11月2日開催)



タイのアユタヤ工業団地の被災地で初期化作業を2011年末に実施。工場内の浸水は1.5m程、水が引いた後にはカビが発生し、劣悪な衛生状態だが、施設使用可能な衛生状態への復旧作業を先導させていただいた。お得意様スタッフにサラヤ側から2名が加わり説明と作業にあたった。



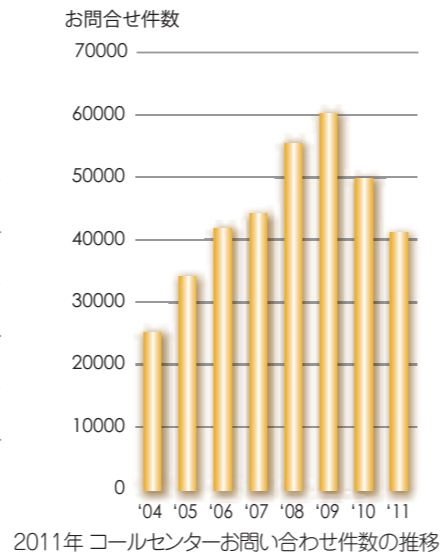
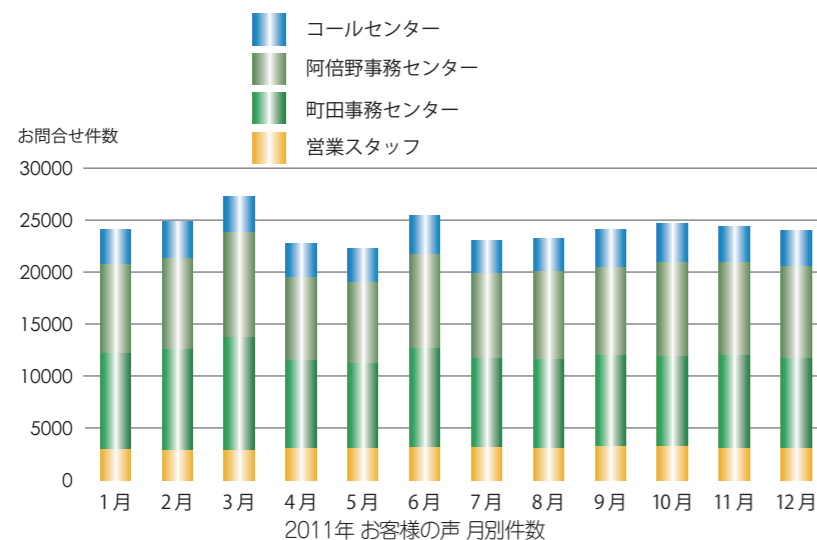
被災地の瓦礫撤去にお役立ていただくために、南相馬市教育委員会様へ10万枚(約550万円相当)を無償提供した防塵マスク「N95」



「第12回環境ブランド調査 調査結果報告書2011(改訂版)」日経BP環境経営フォーラム発行。

環境スコアランキング(B)では、560ブランドの平均スコアが24.5でした。サラヤは、10%以上の購入率のランキングで、スコア41.1でトップ。2位以下は、ダイキン工業、カタログハウス、日産自動車、トヨタ自動車、と続きます。

2012年は、平均23.7、サラヤは40.3で3位に入りました。



12.従業員とサラヤ

人事 従業員がいきいきと、持てる力を存分に発揮できる会社にするため、制度や職場環境の改善に努力しています。

人材は最も大切な資源

弊社では従業員を最も大切な経営資源として位置付けています。その経営資源を有効に活用するためには、従業員が誇りを持って、やりがいを感じ、持てる力を発揮できる環境や制度を整備することが必要であると考えています。そのために、採用、雇用、処遇などに細心の配慮を心掛けることや、安全で快適な職場環境を実現することに、日々の努力を重ねています。従業員に関わるあらゆる場面において、その一人ひとりの人間性と多様性が尊重され、非合理的な理由による差別がない制度、従業員の人権が尊重され、安心して働ける職場、このような会社づくりに取り組んでいます。

人事制度

従業員一人ひとりが積極的に業務に取り組み、仕事を通じて成長し、誇りとやりがいを感じられるよう、目標と評価制度による成果・プロセス評価、優良社員表彰・成果表彰等の各種表彰制度、専門業務型裁量労働制など様々な人事制度・施策に取り組んでいます。

また、自ら望むキャリアアップを実現する機会を提供する、キャリアチャレンジ制度（社内公募制度）、2007年4月からはジョブグレード制度も導入しています。従業員意識調査や各事業所訪問など、従業員の生の声を吸い上げ、参考にすることを心がけています。今後は制度の改善や充実をはかり、よりいっそう働きやすい職場環境の実現に努めます。

人事制度と社員教育制度

目標と評価制度	自身で設定した目標への達成度とそのプロセスを評価し、それを処遇に反映させるもの。目標設定段階では、上司との面談を経て各自「目標と評価シート」を作成、それをもとに達成度とプロセスが評価され、評価は本人にフィードバック。
キャリアチャレンジ制度	自身のキャリアデザインに合った新しい職種に挑戦したい、というキャリアアップを目的とした人事異動を支援する制度。社内で公募される職種又はチャレンジしたい職種に、自己申告で自由に応募できる。
育成制度	自ら学び、能力向上のために自分への投資を積極的に行う従業員に対して、積極的に支援するという方針のもと、オン・ザ・ジョブ・トレーニング、階層別教育プログラム、職種別教育プログラムなどの教育研修を実施。育成的見地からのジョブ・ローテーション、自己啓発支援を目的とした通信教育制度等。
新人研修	入社時に3週間の研修期間を設け、社会人としての心構え、ビジネスマナー、各部署の役割などの各講師による説明と実習を通じ、理解を深める。さらに「自ら考え行動する」ことの実践として、新入社員が新商品や新販売手法などを企画し、プレゼンテーションする「ビジネスプラン発表会」などの研修会も実施。
全社ISO活動教育訓練	全社で、年数回、部署ごとにISO活動の教育訓練を実施。活動実績の評価と反省、今後の目標の確認など実施。また、環境負荷削減のために現場から様々な改善の提案が出されるなど、環境教育の場としても有効に利用。
サラヤフライトプラン	新卒入社対象、自ら考え行動する自立・自律型社員の育成を目的とした3カ年育成・定着プログラム。年1~2回の集合研修を実施。
部門別・職種別教育	部門や職種別に、より実践的な知識の習得・向上を目的とし営業職のための「やしのみ塾」、食品衛生インストラクターのための「インストラクター研修」など。
通信教育制度	自己啓発として、語学力、専門知識やビジネススキルの習得など、個人の知識・能力の向上のための教育支援制度。修了成績に応じ費用を補助。

高齢者雇用

従来から、60歳定年後の再雇用を積極的に推進してきましたが、2006年3月に「定年退職者再雇用制度」を導入し、希望者全員について、60歳定年後も最長65歳になるまで再雇用しております。現在60名程度が、営業・生産等の様々な部署で後進の指導・育成に活躍しています。

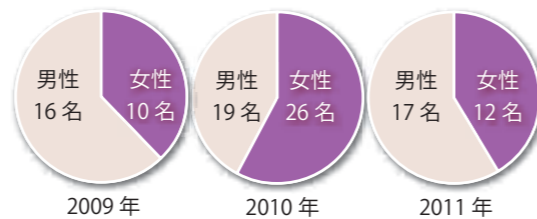
東日本大震災被災者への雇用

東日本大震災によって仕事を奪われた方々への対応にも取り組んでいます。ハローワーク、ホームページなどを通して、被災者の方々に求人をしています。結果、東京サラヤに男性2名、女性1名を採用し、当社で就労していただいています。

男女雇用機会均等

性別にかかわらず、誇りとやりがいを持って働くことができる環境を整えており、採用、昇進、昇格、昇給、人材配置、教育研修機会等あらゆる人事処遇において性別による差別をしていません。個性豊かで、高いプロ意識とモラルをもった自立・自律型人材を積極的に採用・活用しています。

過去3年の新卒採用実績（連結）



サラヤ正社員男女比較

	女性	男性
従業員数	181名	492名
比率	26.9%	73.1%
平均年齢	34.3歳	38.7歳
平均勤続年数	7.7年	10.2年

2011年10月現在

障がい者雇用

2011年6月現在、15名の障がい者が営業・生産・事務等の様々な職場で活躍しています。障がい者雇用率の法定雇用率は1.80%、全国平均は上昇傾向にあり、平成22年度で1.68%となっています。2011年6月時点で法定雇用率の1.80%を下回る1.48%になっています。今後も、関係各機関の協力を得て積極的に障がい者の雇用につとめ、企業としての社会的責任を果たすよう努力いたします。

外国人雇用

弊社では多様な考え方・価値観を理解し、それを経営に適切に反映していくことが肝要であると考えており、外国人採用活動も積極的に行っています。2011年10月現在の外国人従業員数は18名で、出入国管理及び難民認定法や関係諸法規を遵守し、適切な雇用管理を実施しています。

出身国別・職種別外国人従業員数

	出身国別	職種別		
アジア	中国	7	研究開発	8
	フィリピン	2	機器設計	1
	インド	4	海外営業	7
欧州	フランス	1	品質管理	1
	ロシア	2	翻訳通訳	1
北米	アメリカ	1	計	18

2011年10月現在

従業員の内訳と正社員・有期雇用社員・パートタイマーの比較

	役員	正社員	有期雇用社員数			パートタイマー	直接雇用計	派遣社員数	合計
東京サラヤ	5人	312人	嘱託	準社員	有期雇用計	44人	368人	0人	368人
サラヤ	15人	673人	43人	40人	83人	216人	987人	9人	996人
スマイル産業	2人	13人	0人	7人	7人	37人	59人	0人	59人
合計	22人	998人	50人	50人	102人	297人	1,414人	9人	1,423人
	社会保険	加入	法定の加入要件を満たせば適用						
	産前・産後休業		法定通り適用						
	育児休業	原則：対象の子どもが1歳に到達する日の前日迄 例外1：保育園に入所できない場合、その後6ヶ月延長 例外2：例外1の状況で会社が認められた者に限り、その年度末まで再延長							
	定年退職金	あり	なし						

2011年10月現在

ウクライナ出身の海外事業部長

私はウクライナ出身で日本の大学を卒業後、2004年10月に縁あって、サラヤに入社いたしました。入社2日目の朝に上司と共に社長室に呼ばれ、ロシアの現地法人設立を命じられたことを昨日のこのように思い出します。正直、「これは困った」と思いました。一ヶ月後に単独でロシアに派遣され、法人設立の準備を進め、なんとか現地法人の設立ができました。新入社員だった私は、これで10年は老けました（笑）。

以後ロシア、ヨーロッパ拠点担当、オーストラリアでの法人設立など仕事をこなしてきました。2008年12月に担当役員とロシア出張の際に、「君に春から海外事業部を全部見てもらうつもりで」と話され、耳を疑いながらも、聞き直すのも怖くて、そのまま帰国。2009年3月16日付で次長の辞令を受け取りました。

当時は部長のいない部署だったので、実質上の所属長となつてしまい、どうしたらいいのやら、途方に迷いました。入社直後ロシアに送り込まれた当時の心細さを日々味わいました。「前に進んで行かない。僕にとっての理想の上司とは？」と、随分考えを廻らせた。部下が仕事をしやすい環境を整えてくれ、仕事を任せてくれて、前向きに取り組ませてくれて、決断が早く、最終責任を全て負ってくれるのが、私が望む理想の上司の姿だと思えました。

まずは、とにかく決断を早くすること。YesかNoかをはっきりと行うことでした。上司が決断をしなければ部下の仕事が止まり、企業の活動や成長にブレーキが掛かってしまいます。

ダイバーシティ推進室の新設

ダイバーシティとは多様性のことで、性別、年齢、人種、国籍、出身地域、背景となる文化、キャリア、学歴、家族構成、価値観、ライフスタイル、宗教、障がいの有無など様々な考えられます。

サラヤは多種多様な人材を積極的に登用し、適材適所に配属、組織の活性化や生産性の向上、競争力の強化をはかります。そのために専門的に取り組む組織を総務本部内に新設いたしました。

ダイバーシティ推進室の役割と活動

- ・女性リーダー研修の実施
- ・誰もが働きやすい職場・環境制度の整備
- ・高齢者のためのキャリアプラン研修の実施
- ・メンタルケア、ハラスメントへの相談対応

決断をしなければ成功も失敗もなく、そもそもチャンスも来ないんです。止まって考え込むのではなく、進めながら軌道修正をして行くことが大事だと思えました。

会社は生き物で、成長を続けるためには、過去に捉われず、変化に柔軟に対応すべきだと思います。管理職は危機感を持って、企業成長のために果敢に、チャレンジ精神を持ち、変化に応じて行くことが使命だと信じております。今後も自ら変化を求めて、仕事をしてまいります。国籍を超え、世界の「衛生・環境・健康」に貢献します！

海外事業部部長
ドゥブロフカミハイ



海外事業部メンバー、中央が部長のミハイ、右隣が主任の東野

最初は、外国人の先輩に少し戸惑ったのですが、とても気さくに、驚くほど流暢な関西弁で話しかけられたことを思い出します。上司として、みんながフェアに意見を発言できる雰囲気をつくり、小さなことでも良い点はどんどん褒め、チームワークや部内の結束をとても大切にしていますが、容赦なく、厳しく鋭い指摘もします。前向きに、手洗い世界ナンバーワンの実現に向け、切り込み隊長として情熱いっぱい私たちが部員をリードするミハイ部長の背中を必死に追い続ける日々を過ごしています。（海外事業部 主任 東野 祐子）

成長途上のメーカーとしてますます厳しくなる電力事情に、より真剣に知恵を絞って削減の努力を続けます。

福利厚生

従業員が健康的に、快適に働ける環境づくりに努力しています。

仕事と家庭の両立支援

仕事と育児、あるいは介護の両立のための短時間勤務制度、時差出勤制度など、様々な支援制度を設けているほか、育児等による退職者の再雇用や在宅勤務の支援など、育児や介護を行う従業員の雇用環境の整備に積極的に取り組んでおります。過去3年間の育児と介護に関わる制度利用の実績は下記の通りです。

仕事と子育ての両立支援

子育て中に一定期間育児に専念できる休暇・休業制度や、職務負担を軽減することで子育てを支援しています。仕事と家庭の両立を応援します。
産前・産後休暇、育児休業、育児短時間勤務制度、育児時差出勤制度、所定外労働免除、時間外労働・深夜勤務の制限、看護休暇など。

仕事と介護の両立支援

介護を必要とする家族を持つ社員が仕事をしながら介護ができるよう支援する制度です。介護休業、介護短時間勤務、介護時差出勤制度、時間外勤務・深夜業務の制限など。

男性の育児参加サポート宣言

急速な少子化の進行は、社会経済全体に極めて深刻な影響を与えます。今、国・地方公共団体・企業などが一体となって対策を進めていくことが必要とされています。このような背景の中でサラヤは、女性社員だけでなく男性社員も子育てや介護をしながら働き続けることができる組織・職場環境づくり(ワーク・ライフ・バランス)のための働き方の見直しなど、次世代育成支援対策への取り組みを進めています。

ワーク・ライフ・バランス

仕事とプライベート双方の充実が、相乗効果や好循環を生み出すという考え方がワーク・ライフ・バランスです。サラヤでは仕事に集中できるウィークデーとゆったりと休日を取ることができるよう特別休暇制度を設けています。(下右表参考)

休暇のためのリゾート会社やスポーツクラブと契約し、従業員が利用できるプログラムも充実させています。プログラムは適切かつ機会の公平さを基準に策定することを心掛けています。また、社内アンケートを反映して、従業員の満足度の向上に努めています。

次世代育成支援についての認定

2006年8月、大阪府から「男女いきいき・元気宣言」事業者として認定、登録されました。(http://www.pref.osaka.jp/danjo/ikiiki/com_59) また、2009年5月大阪労働局より次世代育成支援企業認定マーク(くるみん)を取得いたしました。



過去3年の育児介護実績(サラヤ株式会社)

産前産後休暇、育児休業	25名
介護休業	2名
短時間勤務制度	14名
時差出勤制度	8名
育児休業からの復帰率	90%

安全衛生委員会

従業員の健康管理と職場環境の整備を目的に、産業医、衛生管理者、総務本部で構成する安全衛生委員会を定期的に開催、定期健康診断のフィードバックや労災の防止など安全衛生の向上に努めています。

セクシュアルハラスメント相談窓口

差別や偏見のない明るい職場の維持、人権に対する意識向上を目的に、「セクシュアルハラスメント相談窓口」を設置し、全社がセクシュアルハラスメントの防止の意識を高くするよう、その定義と対策を取り決めています。

これは、正社員、嘱託社員、準社員、パート・アルバイト、派遣社員等、サラヤにおいて働いているすべての者のみならず、顧客、取引先の人員などに対しても、広く適応される「セクシュアルハラスメントの防止に関する規定」を制定し、具体的な取り組み内容を明確にしています。

相談方法やプライバシーの保護も明確にし、従業員にとって利用しやすい環境になるように、十分配慮しています。実際の問題発生時には、相談窓口において既定のマニュアルに則った対応の実施とともに、専門家である顧問の弁護士・社会保険労務士の社外顧問アドバイザーと連携を図りながら、厳格な対応をはかる仕組みを構築し、体制を整えています。

休暇名	日数	取得条件
ボランティア	年間5日	地域社会への貢献のための奉仕活動に際し取得できる(政治・宗教に関する活動は除く) 例)・公共団体・自治会等の会議・行事の参加 ・地域消防団活動、清掃活動、防犯活動、安全活動への参加 ・国体・公認団体の競技会等の参加 ・NPO等への参画・支援等 ・児童・福祉施設等への教育・支援活動 ・その他所属長が認めた地域社会との交流等の関する活動
自己啓発		社会人としてのスキルを磨くための行動に際し取得できる 例)・講演会、セミナー等への参加 ・展示会、個展、見本市等への参加・見学 ・資格取得の講習日、受験日 ・異業種交流会の参画・参加
メモリアル	年間5日	本人・家族等の記念日や節目の日に際し、取得できる 例)・慶弔休暇に付加(延長) ・誕生日、結婚記念日 ・命日、法事 ・その他所属長が認めた重要な行事、イベント等
ヘルスケア		本人や家族の健康維持管理・増進行動に際し、取得できる 例)・定期健診再検査(精密検査) ・人間ドック ・定期的通院等
リフレッシュ	年間2日	連続公休日の前後(夏季・GW等)に付加し、休暇延長によるリフレッシュ促進のための休暇 例)生産部門: 生産本部の定める日を指定休暇とする その他部門: 所属ごとでの交代・選択性の休暇とする

2011～2012年は、日本及び弊社にとっても大きな激動があった年になりました。社内的には、今年1月20日早朝に、主力工場であります大阪工場が、代表ブランドの「ヤシノミ洗剤」の大量漏洩事故を起こし、地区1級河川の「大和川」までの流出事故に拡大しました。地域社会並びに河川ご利用・管理などに関わられている皆様方に多大のご迷惑をおかけいたしましたこと、誠に申し訳なく存じます。改めまして重ねて、深くお詫び申し上げます。環境管理責任者として、環境管理の不十分さを深く反省し、二度とこのような事故を引き起こすことのないように、リスク評価と管理の見直しの徹底をしております。

一方、昨年2011年3月の東日本大震災は、東北地方沿岸地区の大津波による社会的インフラの壊滅的損失、多大の人的被害等、日本に第二次大戦後最大の被害をもたらしました。それに加えて、福島第一原子力発電所のメルトダウンによる壊滅により原子力発電への信頼性が一挙に失われ、正に日本はエネルギー政策上危機的状況におちいついているといっても過言ではありません。加えて、昨今の欧州の経済危機による世界的不況の荒波は、日本にも容赦なく押し寄せています。比較論で安定通貨とみなされる円が買われている結果としての未曾有の円高にも対応をしなければなりません。正に日本経済は、三重苦四重苦の試練の時にあります。

我々、サラヤもこの世界経済、日本経済の苦境のくびきから逃れることの出来ない状況にあります。この苦しい状況下トップの社長以下社員一同、弊社の世界の衛生に貢献するという企業理念をもって、精一杯の企業努力を続けております。多くの弊社のお客様に、より安く、より良いものをお届けし喜んでいただくべく、様々な社内改革・企業努力を通じて会社のあり方を変えていく変革を加速しております。その変革努力を環境面からいくつか取り上げて見ますとトピックスは、冒頭のトップコメントとも重複いたしますが以下の様な内容となります。従来から継続している環境保全活動は簡単にして、新たなビジネス展開、今後注力すべき活動を述べていきます。

1) RSPO認証油原料への全商品切替

2012年4月より、セグリゲーション、ブック&クレームいずれかのRSPO認証を活用し、パーム油またはパーム核油を原料源としている全商品に展開しています。

2) SOFOROを使用した各種新商品の製造・販売

従来の洗剤原料は、石油系、天然系いずれをも問わず、洗浄力を持たせる洗剤原料とするためには、最終的に化学合成反応をさせて洗剤原料としています。今回弊社が、新たに展開しようとしている「新洗剤」は、従来の製造方法とは全

く異なる概念で製造される原料です。即ち、パーム油から発酵により100%生物的方法で製造された「ソホロピッド」という天然界面活性剤です。洗浄力が高く、洗浄後環境中に排出された際にも極めて高い生物分解性で速やかに地球にもどります。

3) その他、地球規模のグローバルな活動

従来からの継続活動としては、ボルネオ保全トラストへの寄与活動、アフリカウガンダでの「100万人の手洗いプロジェクト」への具体的なビジネス展開を考えた取り組み等を継続してまいります。

4) 環境マネジメントシステム

社内的には、ISO14000をベースにした環境マネジメントシステムも10年以上が経過し通常の省資源、省エネルギー、全体的な環境保全への取り組みは日常活動として浸透しております。しかしながら、昨年の東日本大震災で、日本が今後のエネルギー政策の基本に据えていた「原子力発電」が日本国民総意の推進合意を失いました。

世界的にも、原発は推進・廃止の2極分化にありますが、現状の国内世論、政府対応を見ても原発を積極的に活用する方向にはありません。メーカーとしては、電力事情は今夏の状況でも極めてタイトで、今後各種クリーンエネルギー活用も含めエネルギー問題が解決され、必要な電力供給が可能となる時代がくるまではこの状況が続くことを覚悟せざるを得ません。

昨年の電力不足に対しては、最も電力消費の大きい工場では、時差勤務、休日出勤への振替等で対応し本社、営業所等ではスーパークールビズ、ネオン消灯、エアコン節電、残業規制等々あらゆる節電努力に努めました。今夏も節電努力は継続致しますが、弊社はまだまだ発展途上にあり、電力を含む消費エネルギーは規模拡大に応じ必然的に増大してまいります。これからの目標としては、より真剣に省電力、省エネルギーの設備・機器への設備投資を行うと共に、全員が知恵を出し合って、電力消費を抑制する努力を継続して行きたいと考えます。



環境管理責任者
専務取締役生産本部本部長

富田晋平

14. サイトレポート

生産拠点と本社とはもとより、各地の営業所やお客様事務センターも EMS(環境マネジメントシステム)の活動だけでなく、地域の清掃などのボランティアにも様々取り組んでいます。本社や工場では献血に協力しています。

	2000年BM	2011年計画	2011年実績	自己評価
電力 kWh	437,848	402,843	349,732	◎
燃料 ℓ	14,824	12,600	8,973	◎
紙資源 枚	867,113	1,057,878	1,662,142	××
廃棄物 kg	34,457	48,584	58,240	×
リサイクル率	4.1%	65%	53%	×

	2000年BM	2011年計画	2011年実績	自己評価
電力 kWh	1,346,920	1,346,920	1,511,749	×
燃料 ℓ	112,443	113,567	130,618	×
上水 m ³	42,393	42,393	43,737	△
紙資源 枚	340,000	102,000	112,750	△
廃棄物 kg	522,740	993,206	952,137	◎
リサイクル率	26%	95%	96%	◎

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
電力 kWh	661,332	976,736	1,236,880	1,306,029	1,163,214	1,142,727	1,136,112
燃料 ℓ	11,900	20,000	28,300	52,448	47,290	46,035	47,093
上水 m ³	15,474	27,652	31,947	38,029	36,081	28,638	26,758
紙資源 枚	178,000	247,000	244,000	271,000	262,700	284,000	274,250
廃棄物 t	79.3	153.3	146.7	181.4	153.3	153.7	144.7
リサイクル率	60%	73%	73%	60%	58%	(注1)38.1%	28.6%

注1 本誌2011年版では2010年のリサイクル率は62%と記載しておりましたが、計算違いで38.1%と判明致しました。2010年よりのリサイクル率の低下の原因のひとつは、石けん・洗剤の生産量が増えたことによる活性汚泥の焼却量の増加であると考えられるとタイ工場では分析しています。

	2000年BM	2011年計画	2011年実績	自己評価
電力 kWh	260,045	265,246	207,610	◎
燃料 ℓ	81,261	110,515	101,129	◎
上水 m ³	2,935	2,935	1,270	◎
紙資源 枚	743,500	825,285	560,000	◎
廃棄物 kg	49,100	37,807	24,301	◎
リサイクル率	37.3%	90%	92%	◎

	2000年BM	2011年計画	2011年実績	自己評価
電力 kWh	482,314	718,648	748,089	×
燃料 ℓ	15,773	14,038	14,776	△
上水 m ³	7,837.0	16,223	12,191	◎
紙資源 枚	72,375	96,259	81,389	◎
廃棄物 kg	63,460	215,129	257,186	××
リサイクル率	20.4%	99%	98%	△

献血ボランティア



サラヤ大阪工場では、工場内に駐車場の献血カーで実施しています。2005年より年2回のペースで実施。
2011年1月31日 17名
2011年8月 9日 23名
2012年2月 8日 23名(各400ml採血)



東京サラヤ本社では、2011より年1回駐車場の献血カー内で実施。
2011年4月1日 50名
2012年4月2日 40名
(200ml採血1名、その他400ml採血)

※サラヤ本社では、かなり以前より、本館隣の金融機関の駐車場で実施の献血に参加しています。2011年は6/15、2012年は6/13に実施されましたが、サラヤから多数が参加し、献血しています。

	電力 kWh			燃料 ℓ			紙資源 枚			廃棄物 t			リサイクル率					
	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価			
本町事務所	100%	95%	◎	削減対象外						80%	75%	○	65%	67%	◎			
ベジブルキッチン	100%	87%	◎	削減対象外						100%	61%	◎	0%	20%	◎			
パイ研	大阪工場に含まれる						67%	44%	××	大阪工場に含まれる								
名古屋	115%	98%	◎	115%	104%	◎	140%	258%	◎	150%	95%	◎	95%	88%	×			
京都	116%	61%	◎	116%	112%	○	140%	62%	×	150%	76%	◎	95%	83%	◎			
大阪	90%	97%	×	90%	103%	×	90%	100%	◎	本社に含まれる								
神戸	75%	53%	◎	105%	94%	◎	93%	94%	△	120%	86%	◎	95%	96%	◎			
岡山	150%	97%	◎	187%	175%	◎	168%	88%	◎	187%	39%	◎	90%	90%	△			
広島	93%	85%	◎	64%	63%	○	41%	38%	○	90%	82%	◎	90%	100%	◎			
九州	140%	125%	◎	115%	109%	◎	140%	123%	◎	150%	96%	◎	95%	98%	◎			
スマイル産業	100%	82%	◎	削減対象外						100%	95%	◎	大阪工場に含まれる					
第2機器工場	115%	107%	◎	削減対象外						200%	296%	××	大阪工場に含まれる					
町田事務センター	118%	139%	××	削減対象外						300%	278%	◎	134%	84%	◎	50%	40%	×
札幌	108%	93%	◎	162%	158%	○	163%	131%	◎	60%	77%	×	75%	50%	××			
仙台	116%	105%	◎	150%	134%	◎	80%	94%	×	80%	368%	××	95%	98%	◎			
北関東	115%	60%	◎	115%	128%	×	140%	54%	◎	150%	44%	◎	95%	97%	◎			
千葉	115%	83%	◎	115%	144%	××	140%	117%	◎	150%	128%	◎	95%	96%	◎			
八王子	110%	84%	◎	116%	85%	◎	90%	63%	◎	100%	51%	◎	90%	89%	△			
横浜	115%	74%	◎	115%	108%	◎	140%	153%	×	150%	79%	◎	97%	98%	◎			

出前授業



大阪市立東田辺小学校での出前授業(大阪)
東田辺小学校では6年生がキッズスマート(総合学習としての商業体験)を2001年より毎年実施しており、その商材としてヤシノミ洗剤を提供しています。5年前からはその一環として事前に、ヤシノミ洗剤とボルネオ熱帯雨林との関係などについて生徒さん達に学習していただいています。(2012年5月23日)



品川区立第四日野小学校での出前授業(東京)
同小学校5・6年生各50分の社会科授業として「世界中で使われているパーム油のはなし」をテーマに出前授業を実施。ビーチボール地球儀でボルネオ島の位置を説明、アブラヤシの果房の模型やボルネオの熱帯雨林とパームプランテーションのジオラマなどを使って説明しました。(2012年2月9日)

サラヤグループの会社概要

商品・サービスとお客様

ご家庭向、清潔と健康のための商品

一般流通市場（薬局・薬店、スーパー、コンビニ、ホームセンター、無店舗販売など）に向け、ヤシノミ洗剤、ラカントSなどご家庭用の石けん・洗剤・衛生用品や機能性食品、化粧品などの開発と製造・販売をしております。

食品衛生

食品製造・加工・流通に携わる企業（スーパー、コンビニ、ホテル、外食店、食品工場、給食供給施設など）の安全で衛生的な食品供給のための商品のご提供とお手伝いをしております。

感染予防

病院、社会福祉施設、在宅介護関係、研究施設などの疾病予防や院内・施設内感染予防の商品のご提供とお手伝いをしております。

働く人の健康管理

学校、官公庁、地方自治体、事業所、オフィスビル、スポーツ・アミューズメント施設などの疾病予防のための商品のご提供とお手伝いをしております。また、健康保険組合などを通じて、職場のうがいや手洗いによる衛生の向上のための商品のご提供と、生活習慣病の予防や健康的なライフスタイルのお手伝いをしております。

会社概要

会社名	サラヤ株式会社	東京サラヤ株式会社
創業	昭和 27 年 (1952)	
設立	昭和 34 年 (1959)	昭和 44 年 (1969)
本社所在地	〒 546-0013 大阪市東住吉区湯里 2-2-8 Tel. 06-6797-3111 (代)	〒 140-0002 東京都品川区東品川 1-25-8 Tel. 03-5461-8101 (代)
資本金	4500 万円	6000 万円

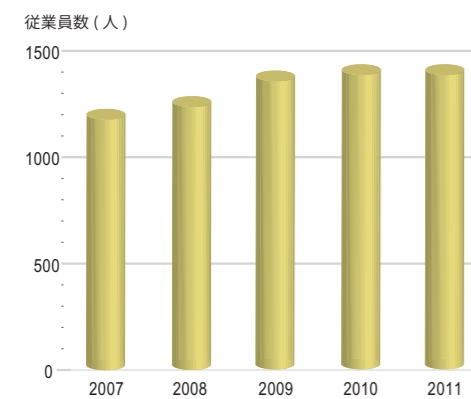
※ 創業は前身である三惠業種として創業した 1952 年、設立は三惠業種の一切の業務を引継いでサラヤ化学工業株式会社を設立した 1959 年とした。1984 年、「自然派のサラヤ」を目指し、サラヤ株式会社と社名変更した。

営業・生産拠点と関連会社

営業	札幌 仙台 盛岡 北関東(さいたま) 水戸 群馬 新潟 東京 千葉 柏 横浜 八王子 城北 静岡 名古屋 松本 京都 金沢 大阪 神戸 岡山 四国(香川) 広島 九州(福岡) 北九州(福岡) 南九州(鹿児島) 沖縄
工場	大阪 伊賀 熊野 中国(東莞) タイ(チョンブリ) アメリカ(ケンタッキー)
研究	バイオケミカル研究所(大阪)
海外拠点	ヨーロッパ支店(ブリュッセル) ハノイ事務所
関連会社	スマイル産業株式会社 有限会社 熊野薬草園 Best Sanitizers, Inc. Saraya HongKong Co., Limited Saraya (Shanghai) Biotech Co., Ltd. Saraya Australia Pty Ltd. Saraya Canada Co., Ltd. Saraya Korea Co., Ltd. Saraya International (Thailand) Co., Ltd. OOO Saraya CIS Saraya Taiwan Co., Ltd. Saraya Hygiene Malaysia Sdn. Bhd. Saraya East Africa Co., Ltd. Sarsys India Private Limited.

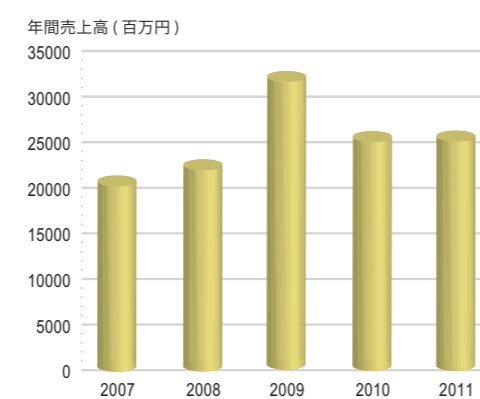
従業員数(サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社)

サラヤ株式会社	991 人	(2011 年 10 月 末現在)
3 社	1440 人	(2011 年 10 月 末現在)



年間売上高(サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社)

サラヤ株式会社	218 億円	(2011 年 10 月 末現在)
3 社	262 億円	(2011 年 10 月 末現在)



表紙の写真 撮影者: Cede Purdente
場 所: マレーシア サバ州



裏表紙の写真



(左列)
撮影者: 更家一徳(サラヤ)
場 所: 三重県 熊野市

(右列上から)
撮影者: 竹谷健太郎・中西宣夫・高橋厚子
(以上サラヤ)、Cede Purdente
場 所: マレーシア サバ州

環境レポート 2012 Sustainability Report

発行日 2012 年 9 月
発行 サラヤ株式会社
編集・制作 サラヤ株式会社 高橋 厚子
お問い合わせ先 サラヤ株式会社
〒 546-0013
大阪市東住吉区湯里 2-2-8
TEL. (06) 6797-3111
FAX. (06) 6700-6656

ホームページ <http://www.saraya.com/env/>

編集後記

Tippy Tap

ウガンダの簡易手洗い Tippy Tap(P11 参照) は、あれだけのことで、しかも塩素も入れていない少しの井戸水の石けん手洗いで、実際にコレラや赤痢が防げているらしいのには、少し驚きました。子どもを死なせることなく、確実に育て上げられるとわかれば、多産が緩和され、お母さんたちも子育てから少し解放され、働くことも可能になり、女性の社会進出も進み、世界はドンドン良い方向に変わって行けると期待が大きく膨らみます。

生存の確率が低い程、人類も含めた生物は多産になります。相対的に経済の強い国ほど少子化傾向であると言えます。古い経済システムでは、どこかの人口爆発が安い労働力を提供し、そこから利益が産み出されて来ました。貧困が教育の機会を少なくし、治安も悪くし、生活の苦しさよりも辛い、危険と隣り合わせの不安な生活をもたらしています。モノの安さが誰かの不幸から成り立っているかも知れないということを、いつも考えて消費しなければと思ひ、カロリーや産地、もちろん金額などスーパーの棚の前で考えることが多く、近頃は買い物も大変です。

アジア No.1 だった大阪

当社の製品は、原料を厳選していることや高品質を優先していることで高めの価格設定ですが、原料以外は低コストに抑えています。本社は大阪の東住吉区にあり、東京のように地価の高いところではなく、比例して物価も安く、私たちはそれ程高給取りである必要はありません。

ときどき、なぜこの場所で創業し、本社もここから動かないのか?と考えると、創業者の故郷の熊野から近い大阪市内であることと当時の花形産業であった繊維工場から近いところであったからでしょうか? 二代目社長は生まれは熊野ですが、大阪に郷土愛を持っています。英経済誌『エコノミスト』の調査部門、Economist Intelligence Unit が毎年行っている調査で、2010 ~ 11 年 2 年連続で最も住みやすい都市の世界 12 位*に大阪がラン

キングされています。食料・衣料・住居、交通、輸送などの 30 項目の調査から世界 140 都市を評価するのですが、12 位の大阪がアジアでは No.1 になります。とは言っても、残念なことに現実には企業が大阪から出て行く傾向にあります。

私がリスペクトしてやまないイボン・シュイナードが創業した「バタゴニア」も地価が高い大都市ではなく、サーフィンが出来る海のそばに本社があり、建屋は比較的質素です。A・トフラーの未来図のように都市集中から、地方分散の方が合理的なのかも知れませんが、当社の社長は毎月のように海外出張しますが、「もったいないから」といつもエコノミーを利用しています。当然役員も、これも大阪の合理主義?

持続可能なパームへの切り換え

当社が、持続可能な RSPO 認証パーム油使用や色々と社会貢献が出来ているのも、このアジア No.1 都市の利点があるからでしょうか。当社は、国内外の大手と同じ 2015 年までに 75% 以上を認証油へ切り替えると EMS の目標に掲げていました。ところが、2012 年の 5 月時点で、すべてのパーム油・パーム核油を RSPO 認証油またはグリーンパーム認証油に切り替えを完了しています。

それは、オーナー社長の一言で動き出し、半年くらいで完了しました。実際に私が開発部門の部長に伝書鳩のように伝言を伝える役目をしました。念のためですが、たまたま同じフロアに席があるので、伝言を指示されただけで、それ以外何も関わってはいません。商品ラベルの部材を使い切ったところで、グリーンパーム認証を表示した商品が市場に出ますが、中身は一足先に切り替わっております。大変申し訳ないことに大和川で泡になった洗剤も、既にグリーンパーム認証油のものでした。この漏洩でご支持いただいている皆様の信頼に背きましたこと、最後に今一度深くお詫び申し上げます。

(高橋)

* 2011 年 8 月公表のベスト 1 ~ 5 位まで、メルボルン、ウィーン、バンクーバー、トロント、カルガリー。参考都市、パリ 16 位、東京 18 位、ロサンゼルス 44 位、ニューヨーク 56 位。